

モノトス其ノ紙幣ニ關シテハ後段ニ於テ之ヲ詳論スル所アルヘシ
 身元保證金ナルモノハ財政上資金ヲ増殖スルヲ目的トスルモノニ非
 ス又國家ノ爲ニ利行ヲナシ又ハ其ノ他國家ニ對シ債權ヲ有スル者ニ
 向ヒ仕拂ヲ延滞スルハ德義ヲ毀損シ信用ヲ墜失スルコト實ニ甚シク
 其ノ他租稅ノ前納ヲ強制スルハ人民ヲ抑壓スルコト極メテ大ナリ
 夫然リ是ヲ以テ財政ノ整然タル國家ニ於テハ必ス以テ任意國債ノミ
 ヲ募集ス其ノ之ヲ募集スルニ就キテ二ノ方法アリ即相場會所ノ幫助
 ヲ籍ルモノト單ニ普通申込法ニ依ルモノトノ別是ナリ
 本條述フル所ノ區別ハ國債ヲ分テ利子付ト無利子トナスノ類別ニ關
 係アルモノナリ即任意國債ハ通常利子付ニシテ而シテ今日普通ノ強
 制國債タル紙幣ハ總ヘテ無利子ナリリス

第一百七十二章

國債ヲ處分スルノ方法殊ニ其ノ償還法ニ依據スルトキハ則左ノ二種
 ニ分ツヘシ

第一 流動國債

第二 固定國債

此ノ類別ハ下文ニ之ヲ詳論シ且其ノ國債ノ管理ニ關スル要領ヲ說明
 シテ其ノ局ヲ結ハントス

第一節 流動國債

一 流動國債ノ定義及種類

第一百七十三章

流動國債ノ何タルヲ知ルニハ固定國債ト異ナル点ヲ舉クルヲ以テ從
 徑トス即其ノ異ナル点ヲ抽出スレハ左ノ四箇アリ

第一 其ノ目的ヲ異ニス 流動國債ハ期限ノ違シタル仕拂義務アル

ニ際シ目下他ニ其ノ資金ナキカ爲一時之ヲ調達シテ義務ヲ完行スルヲ目的トシ固定國債ハ國家カ特別ニシテ且多分ハ永續

第二

スル所ノ事業ニ充ツル資本ヲ調達スルヲ目的トス

其ノ期限ヲ異ニス。流動國債ハ其ノ目的前項ノ如ナルカ故ニ

其ノ期限短縮ナルヲ常トシ固定國債ハ比例的ニ延長ナル期限ヲ約シテ之ヲ募集ス

第三

其ノ法律上ノ整理ヲ異ニス。流動國債ハ即時仕拂ヲナシ又ハ

其ノ仕拂期限ヲ定ムルモ短縮ニシテ而シテ其ノ債權者ニ與ヘタル償還要求權ハ廣大ナリト雖固定國債ニ在リテハ甚シク償還要求權ヲ制限シ或ハ全ク之ヲ與ヘサルモノトス又固定國債ニ在リテハ其ノ處分ノ方法整然トシテ利子仕拂ノ期限及其ノ漸次ノ償還ヲ定ムルモノ多シト雖流動國債ハ其ノ存否始終一

定セス其ノ處分ノ方法ノ如キモ概テ之ヲ缺ケリ

第四

行政法上ノ目的ヲ異ニス。流動國債ハ行政國債タルコトアリ

亦財政國債タルコトモアリト雖固定國債ハ財政國債タルニ限ルモノトス

第七十四章

流動國債ヲ分チテ行政國債及財政國債ノ二種トス

第一 行政國債

行政國債トハ各行政部局ノ行爲ニ因リテ生シ且種々ナル形狀ヲ以テ顯ハル、所ノ國債ヲ謂フ

何レノ行政部局ト雖猶一私人ノ經濟ニ於ケルカコトシ偶然ノ債事取引ヲ生スルコトアリ例ヘハ國家カ勢力又ハ物品ノ供給ヲ受ケテ而チニ其ノ代價ヲ仕拂ハサル時又ハ拂受人其ノ拂受ヲ怠リ偶然ニ仕拂ノ

延滞金ヲ生シタル時ノ如シ而シテ其ノ正當拂受人ノ拂受ケサル俸給恩給國債利子年金及國債元金等ハ大國ニ在リテハ積ミテ巨額トナルコト往々之レアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ全然皆之ヲ判明ナラシメ置カサルヲ得サルナリ

行政國債ノ第二種ハ一定ノ官吏ノ納ムル身元保證金、裁判上ノ保管金及貯金々庫ノ預リ金等ニシテ是亦本來ノ財政國債ト分別シ國家ノ需用ヲ給足スル爲ニ之ヲ用ユヘカラサルヲ規定トスヘシ若シ此ノ規定ヲ守ラサルニ於テハ政治上及經濟上危急ノ時ニ際シ非常ノ困迫ニ陥ルコトナキヲ保スヘカラス

第二 財政國債

尋常流動國債ト云フトキハ概テ流動ノ財政國債ヲ指スモノニシテ此ノ國債ハ其ノ額及其ノ財政上ニ於ケル効力違カニ行政國債ニ超越ス

是ヲ以テ流動國債ハ歳出ノ超過又ハ歳入ノ不足ニ因リテ生シタル財政上出入ノ不平均ニシテ其ノ一時ニ限り且金額モ餘リニ巨大ナラサルモノヲ救治スルヲ目的トシ又其ノ財政上ノ性質ヨリ云フトキハ元來餘リ違カラサル内ニ納期ノ至ル歳入ノ前納タルニ外ナラサルヲ常トス而シテ此ノ國債ハ短期借入、利子付短期國債、大藏省証券又ハ紙幣トナリテ實際ニ顯ハル、モノナリ

(第一) 短期國債ハ國家ヨリ特權ヲ與ヘラレ居ル所ノ銀行ニ就キ之ヲ募集スルヲ常トシ貸付帳簿上ノ貸越爲替又ハ國家ノ歳入若ハ其ノ他ノ保證品ニ對スル前拂ヨリ成ルモノナリ

(第二) 利子付短期國債ハ其ノ事體ニ於テ後段固定國債ノ章ニ及テ論スヘキ定期國債ニ異ナラス唯其ノ仕拂期限稍短縮ナルノミ

(第三) 利子付短期國債ノ別種ニシテ流動國債ノ本相ヲ具フルモノハ

大藏省証券ナリトス大藏省証券トハ國庫ニ向テ振出シタル仕拂切符ニシテ一證券ノ金額概チ巨大ナリ且其ノ流通期限ハ短縮ニシテ三ヶ月六ヶ月九ヶ月乃至十二ヶ月ナルヲ常トシ稍長キハ規外ノコト、又此ノ證券ハ六ヶ月以上ノ流通ヲナスヘキ時ハ利子付トシ發行ノ時ニ之ヲ割引ス而シテ其ノ目的ハ國家ノ經常資金ヲ一時増殖スルニ在リ多クノ國ニ在リテハ此ノ大藏省証券ナルモノハ常時施行ノ方法ニシテ即其ノ仕拂期限ニ達シタル時又ハ之ヲ引揚クル時ニ臨ミ其ノ金額若ハ一部分ヲ新タニ發行スト雖其ノ額ハ財政上ノ需用ニ隨ヒ一定セサルヲ以テ矢張流動國債トナスヲ至當ナリトス

第七十五章

流動國債ハ其ノ本來ノ字義ヲ以テ論スルトキハ必ス一國ノ財政ニ危險アルヲ免レス而シテ之ヲ危險トスル所以ハ償還期限ノ比例的ニ短

縮ナルト債權者カ一定ノ償還要求權ヲ有スルトニ在リ加之流動國債ハ財政豫算ニ載セス且其ノ償還ノ豫算モ立チ居ラサルモノナレハ經常資金ヲ以テ之ヲ償却セサルヲ得ス若經常資金又ハ臨時資金例ヘ、軍事資金ヲ以テ之ヲ償還スヘカラサルトキハ復國債ヲ募集シテ其ノ資金ヲ求ムルノ外他ニ道アルコトナシ斯ノ如キハ政治上不穩ノ時、在リテハ國家ノ爲莫大ノ損失ヲ生スルコトアリ何トナレハ國家ハ舊債ヲ償還スルカ爲實本家ノ愈々巨多ナル要求ニ應セサルヲ得サレハトリ況ヤ國債ニ依リ既定ノ需用ヲ超過スルノ便ヲ生スルコト少ナカニサルニ於テヲヤ

是ヲ以テ流動國債ヲ利用スルニハ須ク注意ヲ加ヘ以テ其ノ分度ヲ守ルヘシ若其ノ額既ニ巨多ナルカ又ハ巨多ナルニ至ルノ恐レアルトハ則之ヲ變シテ固定國債トナスヲ以テ其ノ處理ノ最良法トス蓋固定

國債ハ國家ノ爲成ハ利子ヲ費スコト多キコトアルヘシト雖其ノ一定ノ期限ニ資本ヲ償還スルノ義務ヲ免レシメ以テ之ニ關スル危險ヲ存除スルノ利アルヲ以テナリ

既ニ流動國債ノ必要ヲ是認スル上ハ大藏省證券ノ發行ヲ以テ之ヲ募集スルヲ最適法トナスヘキカ如シ但法律上其ノ發行スヘキ最上限ヲ定メ其ノ額年度豫算總額ニ對シテ正當ノ比例ヲナサシメ且世上ノ不穩ナル時ニ限ルハ勿論ナリ而シテ此ノ大藏省證券ヲ懸憑スルノ理由トナスヘキ事實ノ重要ナルモノニアリ凡此ノ證券ハ國民ノ經濟ニ於テ眞ニ其ノ使用ニ供シテ害ナキ資本ノミヲ募集スルノ常ナルコトニ其ノ利子ハ他ノ利子付流動國債ニ比シテ格外ニ低シカラサルコト是ナリ

二 紙幣

第一百七十六章

紙幣ナル字ニハ種々ナル意義ヲ包含スルコト往々之レアリ故ニ紙幣ヲ分チテ本紙幣及准紙幣トス

本紙幣。即狹義ヲ以テ謂フ紙幣(政府ノ紙幣又ハ軟貨本位トモ云フ)トハ硬貨ニ換用スヘキ紙片ノ有價票ニシテ硬貨ニ等シク法律上ノ通用物ナリ故ニ強制相場ヲ有シテ而カモ交換スヘカラス其ノ法律上ノ性格ヨリ云フトキハ此ノ紙幣ハ無利子強制國債ニシテ償還期限ニ一定ナク且貧富ヲ論セス各人民ニ配賦ス
准紙幣。ハ紙片ノ有價票ニシテ交換スヘカラサレトモ強制相場ヲ有スルコトナシ

右原型タル二種ノ間ニ於テ他ニ尙二種ノ紙幣アリ強制相場ヲ有セザル不換紙幣及強制相場ヲ有スル交換紙幣即是ナリ

此ノ二種モ亦純然タル准紙幣ノ形狀ヲ具スルモノヲ除クノ外強制國債ニシテ本紙幣ニ類スル作用アリ而シテ紙幣ハ何レモ流動國債ニ屬ス何トナレハ其ノ發行額ハ始終動搖シテ増減常ナク其ノ發行者ハ必ス可及的速カニ之ヲ引揚クルヲ目的トスレハナリ

第一百七十七章

凡紙幣ノ中ニ就キ本紙幣程財政上及國民ノ經濟上ニ於テ緊要コシテ且其ノ結果多キモノハアラス

抑狹義ヲ以テ所謂紙幣ヲ發行スルハ最危險ナル方策ノ一ニシテ國家ノ大政ヲ執ル者ハ非常ノ困迫ニ陥リタル時即全ク租稅ノ歲入ヲ増加スルニ道ナク他ニ國債ヲ募集スルノ策畧最早存セサルノ機ニ臨ムニアラサレハ之ヲ實行スヘカラサルモノトス
軟貨本位ノ危險ナル所以ハ紙幣價格ノ不斷動搖スルト其ノ金銀貨國

民ノ經濟及財政ニ影響ヲ及ホスノ少ナカラサルトニ在リ請フ其ノ理由ヲ一言セン夫強制相場ヲ有シテ而カモ交換スヘカラサル所ノ紙幣ハ二箇ノ要件ヲ完備スルニアラサレハ硬貨ト同一ノ價格ヲ保ツ能サルモノナリ其ノ要件トハ何ソヤ曰ハク其ノ之ヲ發行スル國家ハ必然信用ヲ有スルコト及其ノ發行紙幣ノ量ハ交通需用ノ範圍内ニ止マルコト是ナリ然レトモ今之ヲ實際ヨリ論スルニ紙幣ヲ發行スルハ既ニ其ノ信用ヲ失落シタル國家ナルコト常ニシテ又其ノ國家ノ財政遙カニ國民經濟ノ需用ヲ超過スル程ニ多額ノ紙幣ヲ發行スルニアニサレハ之ヲ救フヘカラサルヲ例トナスカ故ニ此ノ二要件ヲ全備スルハ極メテ稀有ノコトナリトス
斯ル場合ニ至リテハ金銀貨ニ對シ其ノ害ヲ來スコト渺ナカラス何ナレハ硬貨ハ相場差額ヲ生シ之カ爲ニ往々硬貨ヲ熔解シ又ハ全ク之

ヲ蓄藏スル者アルニ至レハナリ猶其ノ國民ノ經濟ニ及ホス所ノ枉害更ニ一層甚シキモノアリ何ソヤ曰ハシ紙幣ハ人々ヲシテ危懼ノ念ヲ懷カシメ勇氣ヲ挫折シ而シテ其ノ生産ノ業ヲシテ緩慢ニ陥ラシムルカ如キ總テノ契約殊ニ一定ノ歳月經過ノ後ヲ期シタル契約ノ履行ヲ不安全ナラシムルカ如キ資金ノ金利又ハ其ノ他確乎一定ノ收入ヲ以テ生活ヲ計ル者ハ紙幣發行前硬貨ヲ以テ豫メ之ヲ確定シ置キタルニモ拘ハラス其ノ後ニ至リ價格ノ低落セル紙幣ヲ以テ利金又ハ其ノ他ノ收入ヲ拂受ケルノ不利ヲ蒙ルカ如キ相場會所及銀行商ノ投機商業ヲ誘發シ節儉心ヲ挫折シ物價ヲ騰貴セシムルカ如キ其ノ枉害實ニ枘ニ違アラス故ニ國家ノ信用ハ勿論其ノ財政上内外國ニ對スル關係ニ於テモ亦傷害ヲ蒙ルコト尠ナカラストス蓋國家ノ信用失落シ他日國債ヲ募集スルノ必要アルニ至ルモ其ノ募集上損失益多キヲ加ヘ

且國家ノ發行ニ係ル他ノ流通券ハ皆相場ヲ下落シ軟貨本位ノ生産及交通ヲ枉害スルニ因リ租税ノ歳入額ヲ減少スルコト稀ナラサルヲ以テナリ

是ヲ以テ軟貨本位ハ苟モ策ノ施スヘキモノアレハ可及的速カニ之ヲ廢除スルヲ是急務トナサ、ルヲ得ス勿論之ヲ廢除スルハ頗ル困難ナル事業ニシテ反對ノ方向ヲ取り進行スル所ノ經濟上ノ障礙及紛亂ヲ創生スルニアラサレハ到底實行シ得ヘキモノニアラス殊ニ硬貨ノ相場差額ノ益増加スルカ爲ニ外國工業品ノ輸出ニ對シ安全ナリシ所ノ一定ノ内國工業家ハ價格回復ノ機ニ臨ミ相場差額ノ減却スルト共ニ頗ル困難ナル地位ニ陥ルコト多シ

是ヲ以テ紙幣ハ速カニ之ヲ引揚クルヲ要策トス於是乎其ノ引揚ケニ際シ之ヲ交換スルニ其ノ相場ヲ以テスヘキヤ又ハ其ノ呼價ヲ以テス

ヘキヤ此ノ主要ノ問題ヲ生ス蓋紙幣ノ價格ヲ下落セシコト甚シク且
其ノ下落久シク繼續シタルトキハ相場ヲ以テ之ヲ交換スルヲ得ヘシ
斯ノ如クスルトキハ則財政上其ノ引揚ケ費用自然減少スルハ勿論ナ
リ然レトモ其ノ下落甚シカラサルニ此ノ交換ヲ行フトキハ又其ノ交
通ニ障礙ヲ生スルノ恐レアリ故ニ漸次之ヲ引揚ケ次第ニ其ノ相場ヲ
騰貴セシメ終ニハ呼價ニ達セシムルヲ良シトス而シテ其ノ軟貨本位
ヲ廢除スルノ資金ヲ分擔スル所ノ納稅義務者ノ利益ヲ斟酌スヘキ
勿論ナルカ故ニ紙幣ノ引揚ハ最徐ロニ漸次之ヲ實行スルヲ要ス果
テ斯ノ如クスルトキハ則其ノ相場差額ノ大變動ト相場投機商トニ因
生スル損害ヲ防避スルニ庶幾カラシ
又紙幣國債ヲ廢除スルニハ其ノ稍大ナル一部分ヲ變シテ銀行券國債
トナシ其ノ他ノ稍大ナル一部分ヲ變シテ本來ノ固定國債トナスヲ最

良法ナリトス

第一百七十八章

准紙幣。夫本紙幣ト准紙幣トノ差別タル前ニモ述ヘタルカ如ク准紙
幣ハ強制相場ヲ有セサルカ或ハ交換スルヲ得ヘキカ或ハ強制相場ヲ
有セシテ且交換スルヲ得ルニ在リ而シテ其ノ財政上ニ於ケル價值
ハ利子ヲ附セサルニ在ルナリ此ノ紙幣ハ種々ナル名稱ヲ以テ世間ニ
用ヒラル、モノニシテ其ノ外形ヨリ云フトキハ則銀行券ノ性質ヲ具
フルカ如シト雖其ノ實左ノ區別アリ

第一 發行人ヲ異ニスルコト

第二 銀行ニ於テ之ヲ硬貨ニ代ヘ銀行券ヲ發行スルトキハ銀行ハ始
終銀行券ト現金準備トノ關係ヲ整理スルノ力ヲ有スト雖國家
ハ紙幣ノ現金準備ナキ一部分ニ對シテハ之ヲ如何トモスルノ

カアルコトナシ

此ノ紙幣ノ危険タル危急ノ時ニ臨ミ其ノ準備金ハ紙幣ヲ悉ク償還スルニ足ラサルニ在リ蓋此ノ紙幣ヲ發行シテ財政上救済ノ目的ヲ達スルニ當タリテハ無論充分ノ準備金ヲ置クヘカラサルカ故ニ其ノ額紙幣ノ發行額ニ及ハサルコト常ナルヲ以テナリ若夫平穩無事ノ日ニ在リテハ此ノ紙幣ノ價格ハ敢テ變更セサルコト勿論ナリ

第二節 固定國債

一 固定國債ノ定義及種類

第一百七十九章

固定國債ノ流轉國債ニ比シテ特殊ナル性質ハ前章既ニ之ヲ説述セリ抑固定國債ノ概テ延長ナル期限ニ涉ルコト確然之ヲ財政豫算ニ載ルコト及其人處分ノ順序整然タルコトハ最緊要ナル特性ニシテ此ノ

國債ハ其ノ定義ニ依リテ既ニ知ラルカ如ク其ノ財政ノ秩序ヲ紊ルコト固ヨリ流轉國債ノ如ク甚シカラス却リテ其ノ處分ノ順序整然ニシテ且往々其ノ償還ノ定案確立セルカ故ニ財政上毫モ危険ナク比例的ニ廣大ナル効ヲ奏スルヲ得ルモノナリ顧フニ今代各國ニ於ケルハ如キ巨額ノ國債ハ他種ノ國債トシテハ到底之ヲ募集スルコトヲ得ルリシナラン

第一百八十章

固定國債ニ定時償還ト隨時償還トノ二種アリ第一種ノ固定國債ニ仕リテハ國家ハ債權者ニ向ヒ利子ノ仕拂ヲ約束スルノ外課メ確定シタル期限ニ於テ其ノ資金ヲ償還スルコトヲモ亦約束スルモノナリ此ノ固定國債ハ歷史上ヨリ云フトキハ則稍古キモノニシテ豫定ノ期限經過後ニハ必ス資金ヲ債權者ニ償還シ又國家ハ他種ノ國債ニ於ケ

ルヨリモ或ハ稍有益ナル約束ヲ以テ之ヲ募集スルヲ得ヘク且其ノ償還期限ニハ必ス其ノ資金ヲ備ヘンカ爲國家自ラ節約ヲ甘ニスルノ利益アリ加之ス其ノ債務者ハ一定ノ年數經過後ニ於テハ滿期前ト雖カ資金ヲ償還スルヲ得ルノ便益モ亦之レアリ

然レトモ今日ニ在リテハ此ノ定時償還ノ法ヲ用ユルコト頗ル稀ナリ蓋一ハ債權者ハ永ク其ノ資本ヲ此ニ卸シ置クヲ希望スルト一ハ此ノ種ニ屬スル所ノ國債券ハ國家ニ於テ償還ノ期限ヲ違ヘサルトキハ則其ノ相場ヲ變動スルコト少ナク隨ヒテ差額取引ニ適セサルカ故ニ商業社會ハ之ヲ好マサルト又一ハ此ノ種ノ國債ハ國家ヲシテ大ナル困難ニ陥ラシムルコトアルニヨルヲ以テナリ夫國債募集ノ時ニ於テ其ノ未來ノ狀態ハ豫メ之ヲ確知スヘカラス故ニ一朝不意ノ事故ヲ生スルコトアラソカ其ノ豫定ノ資金ハ以テ其ノ償還ニ充ツヘカラス乃

之ヲ償還セントセハ或ハ其ノ約束ノ利不利ヲ顧ミスシテ新タニ國債ヲ興サ、ルヲ得サルニ至ルコトナシトセス之ニ加フル、ニ此ノ種ノ國債ニ在リテハ利子ノ低減ヲ實行スヘカラス此等ノ理由ハ即此ノ方法ヲ用ユルノ稀ナル所以ナリ

第二種ノ固定國債(即チ隨時償還)ハ今日ノ有様ニ在リテハ前第一種ヨリモ遙カニ以テ優レリトス而シテ此ノ種ノ國債タル債務者ハ債權者即國債券所有者ニ向ヒ定時ニ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フノミナルヲ以テ其ノ特性トス且此ノ債務者ハ財政ノ景況ヲ斟酌シ其ノ餘裕多クレハ則相場會所ニ就キ若シハ其ノ他ノ方法ニ由リテ多額ノ國債券ヲ買戻シ餘裕少ケレハ則其ノ少額ヲ買戻スノ如キ其ノ償還ヲシテ最自由ナラシムルノ權アリ是隨時償還ト稱スル所以ナリ

此ノ契約上償還期限ヲ定メサル國債ハ人ノ之ヲ稱揚スルコト其ノ期

限ノ定メアルモノ、比ニアラス蓋債務者ハ確乎トシテ動スヘカラサ
ルノ義務ヲ負擔スルニアラス又之ヲ管理スルカ爲特ニ左程大ナル機
關ヲ設クルノ必要アラス而シテ債權者ハ之ニ由リテ其ノ資本ヲ永ク
且安全ニ此ニ卸シ置クヲ得ヘク且別ニ資本ヲ要スルコトアレハ則之
ヲ賣却シテ速ニ現金ニ交換スルコトヲ得ルノ便アリ
以上二種ノ國債ハ其ノ元利ノ仕拂ヲナスニ於テ種々ナル方法ヲ用一
ルコトヲ得ルモノナリ其ノ方法ハ下文ニ於テ之ヲ畧論スヘシ

二 定時償還國債

第百八十一章

定時償還國債ノ種類ニ種々アリト雖之ヲ大別スルトキハ利子抽籤償
還國債、元利年賦償還國債及元利定時償還國債ノ三種トナスヘシ

(第一) 利子抽籤償還國債ニ在リテ資金ハ通常其ノ額面ノ如ク一定ノ

期限ニ之ヲ償還スト雖其ノ利子ハ之ヲ各個ノ國債券ニ對シ相當ノ額
ヲ以テ仕拂ハス抽籤ヲ以テ其ノ全部若ハ一部分ヲ當籤國債券ノ所得
トシテ賠償金ニ充ツルモノトス

抑此ノ種ノ國債タルヤ世人ハ專ラ僥倖ニ由リテ巨多ノ利ヲ獲ントシ
幾分カ危険ヲ冒スヲ好ムモノアルカ故ニ其ノ信用ニ乏シキ國ノ爲ニ
ハ大ヒニ國債ノ募集ヲ容易ナラシムルノ利アリト稱スル者アリト雖
又他ノ一方ヨリ之ヲ論スルトキハ徒ラニ僥倖ニ依賴シテ勉強節儉ノ
二徳ヲ減損スルヲ以テ縱令其ノ分度ニ多少ノ差アリト雖社會ニ向ヒ
彼ノ富講ト同一ノ毒ヲ流カスノ恐レアリ然レハ可及的此ノ害ヲ阻遏
センカ爲利子ノ一部分ヲ賠償金ニ用ヒ其ノ他ノ部分ヲ各債權者ニ分
配シ且賠償金ノ差等ヲシテ僅少ナラシメ以テ莫大ノ利益ヲ少數者ニ
與フルコトナカラシメンカ則其ノ募集ニ應スル者少ナクシテ爲ニ財

政上ノ目的ヲ達スヘカラサルニ至ラン且尙其ノ短所アリ即其ノ利了ハ期限内少シモ之ヲ低減スヘカラサルコト他ノ定時償還國債ニ異ナルコトナキモノ是ナリ

第一百八十二章

(第三) 元利年賦償還國債ニ在リテハ一定ノ期限毎ニ利子及資金ノ一部分ヲ債權者ニ償還シ豫メ算定セル分額ヲ仕拂濟ノ上ハ國家ノ負債義務ノ全體消滅ニ属スルモノトス

元利年賦償還國債ニ二種アリ一ハ年限ヲ定メテ分額ヲ仕拂フモノ一ハ債權者ノ終身之ヲ仕拂フモノ是ナリ

有限年賦例ヘハ三十ケ年五十ケ年九十ケ年等年限ヲ定メタル年賦償還ニ在リテハ利子ト共ニ年々債權者ニ仕拂フヘキ資金ノ一部分ハ豫メ之ヲ算定ス而シテ第一ノ債權者若ハ其ノ相續人ハ漸次資金全額ノ

償還ヲ受クルモノナリ

終身年賦ニ在リテハ債權者ノ終身間其ノ者ニ一定ノ年賦額ヲ仕拂ヒ其ノ者ノ死亡ト共ニ國家ノ負債義務消滅ニ属ス數名ノ老年者ヨリ成立チタル結社ニ對スル終身年賦即所謂「トーチ」ニ在リテハ最初各社員ノ爲ニ定メタル年賦額ヲ社員ノ生存スル間仕拂フノ法ニシテ即其ノ生存者ハ逐次死亡者ノ年賦額ヲモ合セテ拂受ケ國家ノ負債義務ハ最終ノ社員死去スルニ至リ始テ消滅スルモノナリ

有限年賦ハ資本ヲ變シテ年賦額トナシ之カ爲數多ノ人ヲシテ資本ヲ殫盡セシムルノ起因トナルカ故ニ國民ノ經濟上ニ取り極テ不利ナルモノナリ加之財政上ニ於テモ行政ノ事務ヲ困難ナラシメ且費用ヲ要スルノ基トナル況ヤ利子ヲ低減スヘカラサルノ不利アルヲ免レサルヲヤ

終身年賦モ亦右ニ異ナルコトナシ結社ニ對スル終身年賦ニ在リテハ其ノ他ニ尙利子抽籤償還國債ニ關スルト同一ナル道德上及財政上ノ不利アリトス

右第一及第二種ノ定時償還國債ハ昔時大ヒニ用ヒラレタルニモ拘ハラズ今日ニ在リテハ尙國ニヨリ之ヲ用ユルコトナキニアラサレトモ要スルニ次第ニ廢タレ行クハ前ニ述ヘタル理由ニ出ツルナキヲ得サルナリ

第百八十三章

(第三) 定時償還國債ヲ募集セント欲セハ元利定時償還ノ方法ヲ用ルヲ以テ最適當ナリトス此ノ種ノ國債ニ在リテハ成規ニ據リテ債權者ニ利子ヲ仕拂ヒ又一定ノ期限ニ資金ヲ償還スルモノニシテ漸次一規則正シク償還スルヲ得ンカ爲國債券ニ順序ヲ設ケ抽籤法ヲ以テ其

ノ償還スヘキ者ヲ定ム

三 隨時償還國債

第百八十四章

隨時償還國債モ亦仕拂ノ期限ヲ定メスト雖債債ニ保ル資金ノ滿額ノ償還スルコトヲ國家カ契約スルモノト單ニ年賦金即所謂永久年金ノ交付ヲ契約スルモノトノ二種アリ而シテ第二種ニ在リテモ亦決シテ其ノ償債額ヲ償還シ得ヘカラスト云フコアラズ財政上ノ景況如何ニ由リ相協會所ニ就キ債券ヲ買戻シ以テ其ノ償還ヲナスヲ得ヘキナリ第一種ノ國債期限ヲ定メサルモ資金ノ滿額ヲ償還スルモノハ單純ナル經濟上ノ事項稍少額ノ國債及稍小ナル共同事項ニ適スト雖之ニ反スル場合ニ於テハ主トシテ第二種ノ國債ヲ良シトス國債額及其ノ他國家ノ歳出額巨多ナルニ於テハ永久年金ヲ以テ償還スル國債ヲ募集

スルトキハ其ノ償還ノ期ヲ自由ニ遠キ未來へ遷延スルヲ得ルノ利アリ要スルニ今代ノ國家ハ其ノ盡クスヘキノ職分實ニ頻繁ナルモノナレハ財政上ノ契約ヲ以テ豫メ確乎タル義務ヲ負フコトヲ避クヘシ何トナレハ後來數多ナル不意ノ出來事ヲ生シ爲ニ總ヘテ豫期ノ事項ヲ齎餅ニ屬セシムルコトアリ既ニ確乎タル義務ヲ負フトキハ則之ヲ盡スニ汲々トシテ却リテ緊急ナル國家ノ目的ヲ達スルノ餘裕アラサニシムルコトアレハナリ

資本家モ亦第二種ノ國債ヲ好メリ蓋資本家ハ資金償還ヲ得ルノ難易ヨリモ寧ロ利子ノ安全ヲ期スルコト常ナレハナリ況ヤ國債券ノ賣買交通ノ活潑ナル今日ニ在リテハ資本家ハ其ノ債券ヲ賣却シテ現金ノ得ルノ極ヲ容易ナルニ於テヲヤ

第三節 國債管理

一 國債ノ募集

第百八十五章

國債ヲ募集スルニ當タリ第一ニ着目ヲ要スルハ國家カ其ノ目的ヲ達スルニ於テ取引ヲナスヘキ人ニ關スル募集ノ方法ナリトス

國債ハ債權者債務者相互間ニ直接ニ之ヲ募集シ又ハ媒介者ノ幫助ヲ籍リ間接ニ之ヲ募集スルモノナリ

(甲) 直接ノ募集ハ商業仲立人代理人及銀行ヲシテ相場會所ニ於テ債券又ハ年金証ヲ賣却セシメ又ハ普通ノ競争申込法ヲ執行スルニ由リテ之ヲナスヲ得ヘシ

申込法ハ國民ノ利益ヲ計リ又ハ愛國ノ目的ニ充用スル國債ヲ募集スルニ最廉用ヒラル、モノニシテ此ノ法ニ於テハ政府ハ其ノ募集スヘキ金額債券額面ノ多寡相場及利子ヲ公告シ人民ヲ總攬シテ其ノ募集

ニ應セシメ而シテ一定ノ最下限ヨリ下ラサル申込ハ總ヘテ之ヲ採用
シ若申込額募集スヘキ額ヨリモ超過スルトキハ或ハ各申込ノ内ヨリ
比例的ニ減少シ或ハ少額ノ申込ニ特權ヲ與ヘテ其ノ總額ヲ定ムルキ
ノナリ若夫申込ヲナシ又ハ他日年金証ヲ賣買スルハ必ス官吏タル者
ニ限ルトスルカ又ハ官吏ニアラサル者ニ限リトスルカ如キコトア
ハ申込法ハ一種特異ノ性質ヲ有スルモノナリ

(乙) 間接ノ募集ハ銀行ヲ媒介者トナシテ之ヲナスモノニシテ銀行ハ
債券ヲ一括シテ引受ケ更ニ之ヲ各個人ニ賣却ス而シテ其ノ手数料一
酬ユルニ或ハ一定ノ手数料ヲ受ケ或ハ債券ヲ少シク廉價ニテ引受ケ
其ノ價ヲ加ヘテ之ヲ賣却シ其ノ差額ヲ以テ利益トナスヲ得セシム
銀行ヲ媒介者トシテ國債ヲ募集スルトキハ政府ハ豫メ必需ノ評議ヲ
遂ケ全然信用スルニ足ルヘキ一銀行ヲ指定シ之ト直接ニ協議ヲナシ

テ募集ノ事務ヲ執ラシメ或ハ入札法ヲ用ヒ同一ノ安全ヲ以テ最有益
ナル申込ヲナス銀行ヲシテ之レヲ執ラシム而シテ其ノ入札法ヲ用ユ
ルトキハ公然競争ノ利ヲ収メ兼テ幾分カー一二ノ銀行ニ偏シテ利ヲ與
フルノ嫌疑ヲ避ケ且國債募集ノ事務ニ熟レタル代理者カ賄賂ヲ利用
スルノ弊ヲ防障スルヲ得ヘシ勿論一銀行ニ於テ專賣ノ姿ヲナシ又ハ
各銀行相互ニ申合ヲナスカ如キコトアレハ競争モ亦無効ニ屬スヘシ
且此ノ法ハ殊ニ富需ナラサル國ニ於テ危急ノ時ニ在ミ緊急ノ需要ア
ルニ際シテ之ヲ施行スルトキハ則必然好果ヲ期スヘカラサルモノナ
リ

第百八十六章

前條述フル所ノ募集法中特ニ稍巨額ノ國債ニ在リテハ公然申込法及
銀行ノ補助ヲ籍ルノ法中何レカ其ノ一ヲ取ルヘシ代理人等ヲシテ直

接ニ之ヲ募集セシムルノ法ハ國債ノ額稍小ニシテ徐々ニ債券ヲ發行シ得ル時ニアラサレハ之ヲ行フヘカラサルヲ常トス何トナレハ急速ニ之ヲ相場會所ニ於テ賣却セシメンカ一般ニ流通券ノ相場ヲ下落ヘルノ恐レアレハナリ加之此ノ法ハ債務者及其ノ代理者ニ於テ投機ノ業ヲ試ムルノ嫌アリテ或ハ反法ノ發行ヲ爲スニ至ラシムルコト容易ナルノ恐レモ亦之レアリ右ノ二法中申込法ヲ以テ優レリトス申込ノ規約ハ頗ル確乎タルモノナレハ國家ハ敢テ債權者ノ競争ノ爲ニ利ヲ得ルヲ是トセスト雖全ク往々莫大ナル報酬ヲ媒介者ニ給スルノ費用ヲ節スルヲ得ヘシ

然レトモ申込法ハ内國ニ資本家多ク且國債ノ目的公衆ノ是認スル所ニシテ而シテ其ノ申込期限餘リ短縮ナラサル時ニアラサレハ則充分ノ効果ヲ収ムヘカラス之ニ反シテ内國資本ニ乏シク申込法ノ爲ニ恐クハ他ノ事業ニ用ヒ來リタル資本ヲ奪ヒ去ルカ如キ又輿論ハ該國債ヲ贊成セサルカ如キ又短縮ナル期限ニ之ヲ募集セサルヲ得サルカ如キ時ハ國家ハ銀行ノ補助ヲ籍ルコトヲ避クヘカラサルナリ

第百八十七章

國債ヲ募集スルニ當タリ第二ニ着目ヲ要スルハ其ノ利子及資金ニ關シ債權者ニ與フヘキ要求權ノ範圍ナリトス而シテ其ノ利子ノ資金ニ對スル比例如何ヲ定ムルニ左ノ二法アリ

第一法ニ由レハ資金及其ノ相當利子ヲ債券面ニ明記シ發行ノ當時ニ在リテハ其ノ資金ト券面利歩及實額利歩ト普通ノ比例ヲ爲スト雖他日此ノ債券ノ相場ノ高下ニ從ヒ其ノ比例ヲ變スルコトアリ例ヘハ其ノ相場券面額ヨリモ騰貴スルトキハ實額利歩ハ券面利歩ヨリモ下落シ其ノ相場下落スルトキハ全ク之ニ相反スル如シ

第二法ニ由レハ利子ハ國家カ債券ニ代ヘテ實際受クル所ノ資金ニ對シテ相當ノ比例ヲナサス却リテ實額ヨリモ大ナルコト常ナル券面額ニ比例ス故ニ發行ノ當時ニ在リテハ利子ト券面資金及實額資金トノ間ニ正當ノ比例ヲナサ、ルモノナリ例ヘハ券面ニ資金百圓利子三券トナシ實際國家ハ百圓ヲ受ケスシテ値ニ六拾圓ヲ受ケ其利子ハ實際五朱トナルノ類ナリ

抑此ノ第二法ハ昔日ニ在リテハ大ニ稱讚セラレタルモノニシテ今日尙之ヲ辯護スル所ノ理論家及實際家ナキニアラス而シテ之ヲ稱讚スル理由タル國家ハ利子ヲ節約シ之カ爲メ速ニ償還ヲナスノ位地ニ違スヘシ又此ノ法ハ大ニ投機業ヲ試ムルニ餘地アラシメ且利子遞減ノ恐レナキカ故ニ資本家ニ於テモ大ニ此ノ國債ヲ好ムヘシト云フニ在

然レトモ之ヲ非トスル論者ハ曰ハク國家ハ最初ヨリ償還セサルノ意ナレハ格別若然ラサル以上ハ實際受ケタルヨリモ多額ヲ償還スルノ義務ヲ負フノ不利アリ蓋其ノ低廉ナル相場ヲ以テ直ニ之ヲ償還スルヲ得ルト否トハ豫知スヘカラサル所ノ種々ナル事情ニ關係スルモノニシテ一朝其ノ相場速ニ騰貴シ例ヘハ券面額ニ違ヌルコトアラハ則其ノ利子ニ於テ得ル所ハ其ノ償還ヲ爲スニ付キテノ損失ヲ償フニ足ラサルヘシ加之利子ヲ低減スヘカラサルコトハ債權者ノ利トスル所ナレトモ國家ニ取リテハ大ナル不利ナリ發行ノ後未タ入シカラスシテ利子ヲ低減シ得ルコトアルモノトセハ其ノ低減ハ券面額以下ヲ以テ券債ヲ發行ズルニ由リテスルヨリモ一層大ナル節約トナルコト事實ナルニ近シ

是ヲ以テ簡單明瞭ニシテ且舊法タル第一法ヲ勸奨スヘキコト常ナリ

トス。

第百八十八章

國債ヲ募集スルニ當タリ第三ニ若目ヲ要スルハ國債ノ本位債券ノ樣式及利子仕拂ノ期限場所及方法ナリトス

本位ニ關スル問題ハ償還スヘキ國債ノ元利仕拂ニ於テ緊要ナリ夫外國債ニ在リテハ其ノ元利ハ內國又ハ外國ノ硬貨ヲ以テ仕拂フヘキトトヲ規定スヘク又內國債ニ在リテハ其ノ國ノ本位ヲ用ヒテ足レリトス去リナカラ軟貨本位ノ國ニ在リテハ債權者ニ對シ硬貨ヲ以テ仕拂フノ契約ヲナスヲ良シトス何トナレハ始終相場ノ變更スル紙幣ヲ以テ利子ヲ仕拂フトキハ則國債ノ募集ニ應スル資本家ヲ減スルヲ以テナリ

債券ノ樣式上ヨリ之ヲ論スルトキハ記名債券及無記名債券ノ二種ニ

分ツヘシ無記名債券ハ毫モ法式上ノ手續ヲ履ムコトナク他人ニ移轉スルヲ得ルモノニシテ所有者ノ更迭毎ニ特ニ裏書記名ヲ必要トスル記名債券ニ比スレハ則遙カニ其ノ流通ニ便ナリ故ニ債券ノ多クハ無記名ニ屬ス然レトモ記名債券ハ總テノ出來事ニ對シ最安全ニシテ且未丁年者等ノ爲買入レ置クニ極テ勸奨スヘキモノナレハ同時ニ之ヲ存スルハ甚希望スヘキコトナリトス

國民中何レノ階級ニ居ル者ト雖皆此ノ安全ナル流通券ヲ所得スルコトヲ得セシムルニハ即國債ハ些少ノ額ヲ以テセル債券ヲモ交ヘテ之ヲ發行スルヲ必要トス

利子仕拂ノ期限場所及方法ハ財政上ノ利便ニ於テ許ス限リハ債權者ノ爲便利ナルヲ要ス利子ノ仕拂ニハ毎半年ニ仕拂フヘクシテ順ホノ番號ヲ附シ仕拂期日及利子額ヲ記載シ債券ヨリ裂キ取ルヘキ利子札

ヲ以テスルコト常ナリ利子札既ニ盡キタルトキハ債權者ハ債券若ハ利子札畫紙ヲ提示シテ更ニ利子札ヲ受取ルモノナリ

二 利子低減種類變更及整理

第百八十九章

利子低減トハ財政上ノ都合ニ由リ政府ヨリ利子ノ歩合ヲ減殺スルヲ云フ

利子低減ニ反法的ト契約的トノ二種アリ反法的ノ利子低減トハ強制ニ出ツルモノコシテ幾分カ國家ノ仕拂不能ヲ表スルモノナリ而シテ財政學ニ於テ研究スルハ其ノ第二種即契約的ニ屬スルモノ、ミトハ抑利子低減ノ法ハ條理ニ背馳スルモノナリトノ說ハ昔日專ラ世人ノ唱道シタル所ナリト雖今日ニ至リテハ苟モ世上一般ノ利歩下落セルトキハ此ノ法ヲ實行シ以テ納稅者ノ負擔ヲ輕クスルハ實ニ國家ノ權

利ノミナラス復其ノ義務ナリトノ理ヲ曉知シ漸ク舊說ヲ排斥セリ若國債ノ契約中利子ヲ低減セサルコトヲ明言シアルトキハ則之ヲ以テ契約ニ悖戻スルモノト謂フヲ得ヘク又強制的ニ之ヲ實行スルトキハ則之ヲ以テ不條理ト云フヲ得ヘシ而シテ此ノ第二種ノ方法ハ其ノ實際ニ於テハ國家ハ債權者ヲシテ利子ヲ低減シテ債ノ關係ヲ存スルコトヲ承諾スルカ或ハ券面額ヲ以テ其ノ償還ヲ受シルカ其ノ一ヲ擇マシムルノ方法ヲ用ユルモノナリ

然レトモ利子低減ハ全ク危険ナキニアラス之ヲ實行セント欲セハ必ス豫メ深ク其ノ關係ヲ有シ得ヘキ總テノ事情ニ注意シ以テ調査ヤサルヘカラス蓋債權者ノ多數ハ民間經濟上ノ起業ニ於テ他ニ稍安全ニ稍利益多クシテ資本ヲ卸スノ道アラサルコトヲ確認シ資本ノ償還ヲ受タルヨリモ寧ロ利子ノ低減ヲ好ムニアラサレハ則之ヲ實行シテ良

果ヲ収ムルコトヲ得ス斯ル場合ニ於テハ良シ少數ノ債權者ニシテ其ノ債還ヲ要求スルアルモ之ニ反シ亦新タニ債權者トナル者ヲ生スヘシ是ヲ以テ利子低減ヲ實行スルノ好機會ハ國債ノ利歩民間慣用ノ利歩ヨリモ高キ時即之ヲ別言セハ債券ノ相場久シク券面額以上ニ在ル時ニ在リトス

○百九十章

種類變更トハ甲種ノ國債ヲ變シ以テ乙種トナスノ謂ニシテ例ヘハ定時債還國債ヲ隨時債還國債トナスノ類ナリ蓋此ノ法ニ於テモ亦利子低減ト同シク契約上之ヲ變更セサルノ明言ナキトキ又ハ強制ニ出テサルトキコアラサレハ則法律上之ヲ實行スヘカラサルハ言ヲ埃タス其ノ之ヲ實行シテ好果ヲ收ムルノ見込アルトキハ則各種ノ國債ヲ論スルニ際シ既ニ説述シタルカ如キ理由アルヲ以テ其ノ變更ノ實行ヲ

勸奨スルモノナリ

又國債ノ整理ナルコトアリ國債ノ整理トハ即利歩ノ異同ヲ論セス異種ノ國債ヲ合一ニシテ利歩ヲ同フスル同種ノ國債トナシ以テ其ノ外形ヲ一様ニシ且之ニ係ハル事務ヲ簡單ナラシムルヲ謂フ此ノ法ハ利子低減ノ法ト同時ニ實行セハ則往々大ニ利便ニ適スルコトアルヘシ

三 債還

第百九十一章

國債ノ債還ハ契約上定ムル所ノ方法又ハ賦約ノ方法ヲ以テ資本ヲ債還シ以テ其ノ一部分若ハ全部ヲ除去スルニ在リ此ノ債還ニ在リテモ亦利子低減ニ於ケルカ如シ國家ハ擅マニ其ノ負擔ノ義務ヲ免レ納稅者ノ利益ノ爲債權者ノ權利ヲ犧牲ニ供スルトキハ則是不法ノ處罰ナリトス故ニ斯ノ如キ不法ノ處置ハ國家ノ仕拂不能ノ徵候ナリトスル

ヲ得ヘシ但此ニハ法律上許ス所ノ償還ノミヲ論スヘシ
 前ニモ一言セシ如ク國家カ國債ヲ舉ケテ國民ノ私債ニ變セントスル
 時即之ヲ別言セハ其ノ財產殊ニ土地ニ準シテ之ヲ國民ニ賦課セン
 トヲ試ムルトキハ其ノ處置モ亦仕拂不能ヲ隱蔽スルモノニシテ是ハ
 爲國民一般ノ經濟殊ニ物價信用及土地所有ニ生スル所ノ非常ノ紛亂
 變動ハ姑ク措クテ問ハサルモ仍ホ右ノ賦課ヲナスニ當タリ正當ノ標
 準ヲ見出スヘカラサルヲ以テ既ニ之ヲ非トセサルヲ得サルナリ
 臨時租稅モ亦適當ナル償還法ニアラス蓋此ノ法ヲ行フモ實際ニ於テ
 効果ナキカ否ラサレハ則其ノ償還ハ名義上ノミニシテ不當ナル資本
 ノ順轉ト恐ルヘキ危急相伴フテ因生スルコトアルモノナリ

第四百九十二章

夫國債償還ハ經濟上總ヘテノ事情ヲ斟酌シ漸々一部分ツ、之ヲ實行

スルモノニアラサレハ則其ノ真正ナル償還ト云フヘカラス蓋一定ノ
 立案ニ從ヒ漸々之ヲ實行スルトキハ則國家ノ爲信用ヲ増加シ財政ノ
 全體ヲ改良シ租稅ヲ輕減シ尙或ハ新タコ他ノ支出ヲナスノ餘裕アリ
 シメ且需用ヲ生シタル場合ニ臨ミテハ新タニ國債ヲ募集スルコトヲ
 容易ナラシムル等其ノ利益亦渺ナカラス是ヲ以テ政府タルモノ宜シ
 ク始終其ノ償還ニ用意シ以テ後世ノ爲國債ノ募集ヲ頗ル困難ナラン
 ス又ハ全ク其ノ道ヲ防障スルコトナカラシムルヲ期スヘシ是即國家
 ノ義務トス何トナレハ其ノ後世ニ於テモ信用ヲ利用スルノ必要アル
 ハ則從來ノ如クナルハ亦疑ヲ容ルヘカラサレハナリ
 償還ハ縱令漸々ニ之ヲ實行スルモ其ノ事有名無實ナルトキハ則其ノ
 利ナカルヘシ則彼ノ租稅ヲ加重シ又ハ新タニ國債ヲ募集スルコト
 ナレハ其ノ實行ヲナスヘカラサルカ如キハ却リテ舊國債ヲ保存スル

ヨリモ一層有害ナルヲ常トス是契約上漫リニ償還ヲ要スルコトナク
 唯適當ニ其ノ償還ヲ得ヘキ國債ヲ勸奨スル所以ニシテ若容易ニ償還
 ニ充ツヘキ資金ヲ得タル時ハ速カニ償還ヲ行フヲ良トス例ヘハ純益
 ノ多カラサル官領地ヲ高價ニ拂下ケ得ヘキル又ハ偶然歳入ニ剩餘ヲ
 生セシ時ニ限ルモノトス然レトモ此ノ時ト雖モ尙深ク注意ヲ加ヘ以
 テ國民ノ經濟上ニ篤ク斟酌セサルヲ得サルナリ何トナレハ彼ノ外國
 ヨリ巨多ノ軍事債金ヲ得ル時ニ於テ實行シ得ヘキカ如ク一時ニ巨
 額ノ國債ヲ償還スルトキハ則忽チ經濟社會ニ於テ不用ノ資本ヲ充満
 シ爲ニ無謀ノ投機商ヲ發生スルノ恐レアルヲ以テナリ故ニ利歩低減
 シテ利子ノ負ヲ輕擔カラシムルハ國債ヲ減少スルヨリモ寧ロ實際ニ
 於テ緊要ナルコト常ナリトス

第百九十三章

定案ニ從ヒ國債ノ償還ヲ實行スルコトヲ得ンカ爲特ニ國債償還金庫
 ヲ設置シ其ノ事務ヲ一般ノ金庫事務ト隔離シ且之ニ毎年ノ歳出ニ屬
 スル償還資金ヲ與フルノ方法アリ而シテ其ノ事務タル相場會所ニ就
 キ債券ヲ買戻シ又ハ其ノ償還スヘキモノ、抽籤ヲナスニ在ルモノニ
 シテ特ニ定メタル償還資金ノ外豫定ノ期ニ至リ國債ノ全部ヲ償還シ
 終ルマテハ既得ノ債券ニ對シテ始終増殖スル所ノ利子ヲモ亦利用ス
 ルモノナリ

此ノ償還金庫タル昔日ニ在リテ世人ハ往々之ヲ稱揚シタリト雖却リ
 テ其ノ期望ノ如キ効ヲ奏スル能ハサリシ蓋其ノ善効ナキモノ他ナシ
 其ノ當初ノ計畫如何ニ善美ナルモ立案如何ニ精密ナルモ實際ノ活動
 又ハ其ノ避クヘカサル不意ノ出來事及經濟上ノ危急等ニ因リテ往々
 豫期ニ反背シ計畫總テ齟齬ニ屬スルコト免レサルニ在リ然レトモ此

ノ金庫アルトキハ常ニ其ノ償還ノ義務ヲ怠ラサシメサル道徳上ノ
 價值アリ且其ノ償還資金ハ随分巨多ナルモノニシテ若不幸ニ臨時非
 常ノ軍事等アルニ際シ一時其ノ出軍ノ目的ニ充用スルノ便アルハ事
 實上ノ價值ナリ必覺スルニ以テ其ノ多少ノ便益アルコトハ亦掩フ
 カラサル所ナリ

第四編 財務行政

譯者曰ハク本編ハ財政學上須要ノ一篇タルニ拘ラス原本之ヲ
 闕ケリ故ニロッシェル氏財政學中ノ要点ヲ抄譯シ此ニ挿入シ以
 テ其ノ闕ヲ補ハントス蓋字句ノ往々原文ニ對シ緊密符合セザ
 ル者アルハ彼此前後ノ接續ヲシテ流暢ナラシメンカ爲メナリ

第四百九十四章

國家歳入歳出ノ材料ハ前ノ三篇中吾輩既ニ之ヲ論セリ今ヤ國家財政
 ノ外部ノ組織ニ關シテ少シク觀察スル所アラントス夫苟モ經濟トハ
 彼ノ富ノ需用ヲ給足スルヲ以テ目的トシタル定書ヲナシ整然之ヲ實
 行スルノ謂ヒナリト云ハ、其ノ經濟ノ外面ニ顯ハル、順序手續ノ善
 惡ハ則左ノ三箇ノ事實ニ關スヘシ

一 定書ハ明確ニシテ通覽シ易キコト但深思熟慮シテ定書ヲ立テ(康

算ノ制ヲ云フ)以テ精密ニ之ヲ循行スルヲ要件トス

二 其ノ實行(出納及決算ノ制ヲ云フ)ハ定書ニ密合スルノ確實ナルコト(監督ノ制ヲ云フ)

三 右二種ノ目的ヲ達スルニハ行政上意思ノ一途ニ出ツルヲ必要トスルコト(官廳ノ組織ヲ云フ)

以上舉示スル所ノ事實中其ノ何レニ於ケルモ國家ノ財政ト一私人ノ經濟ト大體相似タルモノニシテ其ノ異別ナルハ一私人ノ經濟ニ在リテハ一人若ハ數人ノ財産ヲ維持シ且之ヲ増殖スルヲ目的トシ國家ノ財政ニ在リテハ國家全體ノ活動ヲシテ經濟上ノ基礎ヲ得セシムルノ目的トスルノ一点ニアルノミ一私人ノ經濟ニ於ケルモ其ノ稍大ヒノルモノハ特ニ役員ヲ要ス而シテ數人ノ財産及權利義務ノ關係アルニ於テハ其ノ監督ノ如キニ至リテモ國家ニ相類スルノ方法ヲ以テ之ヲ

行ハサルヲ得サルナリ

國家ノ財政ニ於テ統一主義ヲ發達シタルハ之ヲ一般ノ政治ニ比スハ概テ遙カニ晚カリシニ相違ナシ就中州議會ノ財務ニ於テ其ノ勢力ヲ保維セシコト國家一般ノ統治事務ニ於ケルヨリモ遙カニ久シカリシハ文獻ニ徴シテ明カナリ政府カ財政上毫モ制限ヲ蒙ラザリシ國家又ハ之ヲ制限スルモノハ帝國國會ノミナリシ國家ニ於テスラ彼ノ國家全體ノ宏大ナル目的ニ關シ有機體主義ノ理想ヲ發達シ完美ナル財務術ノ幫助ト希望トニ頼リ終ニ中央集約ノ域ニ達セシマテハ則常ニ國家ノ目的ヲ擴張セントシ住々之ヲ異議セラレ又之ヲ實行スルニ際ミテハ其ノ新來ノ目的ノ爲新タニ當該ノ金庫ヲ創置スルノ有様ナリシナリ佛國ニ於テハインリヒ第四世王カ今後國王ノ命令ヲ以テスルノ外ハ租稅ヲ徵収スルヲ許サス又縣令司令官等ハ國王ノ金庫ノ外其

ノ俸給職務費等ニ充ツル資金ヲ他ヨリ受クルヲ許サスト命令シタル
如キハ實ニ時代ヲ維新シタル一大進歩ト謂フヘキナリ

第一項 財務廳

第百九十五章

夫日耳曼諸王ノ威力ハ國民漂泊ノ時代ヨリ概テ其ノ羅馬諸州ヲ保護
シタルニ因リ赫々タリシモノニシテ舊フランクン君主國ノ財政ニ於
テハ未タ大ヒニ羅馬帝國末代ノ中央集權ヲ極メタル財政ノ遺風ヲ存
シ殊ニメロウ・ンゲル家ノ王位ニ有リシ時ニ當リテハ羅馬ニ於ケル國
庫ノ意義ヲ傳フルモノ訖ナカテサリキ然ルニ其ノ後王領主義及現物
經濟ノ勃興スルニ遭ヒ且國王ノ經濟ト國家ノ財政トヲ全ク混同シ終
ニ其ノ全體中古ノ特性ヲ免カル、能ハスシテ久シキ間本來ノ財務官
吏ト云フハ單ニ關稅徵收人ノミニシテ國家ノ歳入歳出ハ普通ノ官吏

ニテ取扱ヒタリ中古ノ末期ニ至リ最新ラシク組織シタル國家ト雖財
政ニ於テ今日行ハル、所ノ分業及中央集權ニ及ハサルコト尙遠シ當
時王侯ノ羈絆ヲ脱シテ獨立シタル都市ハ他ニ率先シテ何事ニ就キテ
モ文明ノ徵候ヲ顯ハシタルモノニシテ其ノ財政ニ於テモ今日ノ有權
ヲナスノ途ニ就キタルハ該都市ヲ以テ嚆矢トス就中夙ニ金錢經濟ヲ
興シ公共ノ財政ニハ本來ノ租稅ヲ徵收シ又公債ノ法ヲ用ヒ殊ニ財務
機關ヲ設ケテ公共ノ監督ノ下ニ置キ以テ法律上ノ規定ニ從ヒ公共財
政ノ収支ヲ掌ラシメタリ然ルニ貴族輩ハ財政ニ關スルモ亦中央集權
ニ正反對ノ主義ヲ懷キ苟モ其ノ傾向アラハ務メテ之ヲ防止セントシ
タリ例ヘハ丁抹國ノ參議院ハ出納總裁ノ官ヲ置クコトヲ肯セス國家
ノ歳入歳出ハ舉ケテ之ヲ數多ナル高等ノ官吏ニ委附シアリタリ蓋貴
族輩カ曖昧ノ間ニ非理ノ利ヲ私スルヲ容易ナラシメンカ爲此ノ舉ニ

出テタルナリ

舊貴族政治風ノ等族制憲法ニ在リテ等族議會ノ勢力ハ主トシテ租稅ヲ承諾シ後ニ至リテハ議會ノ總代ヲシテ通常之ヲ徵收支出セシメタルニ起因シテ君主ノ金庫ト等族ノ金庫ト相對峙兩立セシムルヲ以テ其ノ財政ニ於ケル最緊要ノ特性トセリ此ノ二金庫ノ別ハ何レニ在リシヤヲ尋ヌルニ君主ノ金庫ハ王領地及特有財產ヨリ生スル收入並ニ多クハ關稅手數料印稅等ヲ以テ其ノ歲入トナシ等族金庫ハ等族議會ノ承諾シタル租稅(狹義)ヲ以テ云フヲ以テ其ノ歲入トセリ而シテ君主ノ金庫ハ實ニ君主内廷ノ諸費ヲ辨スルノミナラス等族ニ於テ負擔スルコトヲ明言セサル總テノ國家ノ歲出ヲ支給シ等族金庫ハ特定ノ目的ヲ達スルノ費用就中常備兵ノ爲ニ要スル經費ヲ支辨セリ故ニ等族ノ金庫(即國庫)ヲ指シテ軍費國庫トモ稱シタリ斯ル兩立主義ノ行ハレ

タルニモ拘ラス等族議會ハ租稅承諾ノ請求ヲ受クルヤ必ス先ツ君主ノ資産ノ不足ヲ証明セシメ且後ニハ其ノ資産ヲ減スルトキハ必ス議會ノ同意ヲ要スルモノトシ以テ幾分ノ統一ヲ謀リタリ之ニ反シテ幾多ノ州議會國中ニ割據シテ大ニ財政ノ統一ヲ困難ナラシメ君主ハ其ノ資産ノ幫助ヲ藉リ僅カニ之カ統一ヲ謀ラサルヲ得サリシナリ

財政上ノ需用次第ニ増加シ殊ニ金錢經濟ノ盛ニ行ハレ且軍事上ノ負擔愈大ナルニ隨ヒ即一言以テ之ヲ掩ヘハ文化ノ進ムニ隨ヒ之ニ伴フテ財政ヲ統一スルノ要益急ナルニ至レリ而シテ其ノ統一ノ目的ヲ達スルニ就キ國情ノ異ナルニヨリ全ク正反對ナル二種ノ方法アリシ即歐洲大陸ノ諸大國ニ在リテハ專制君主政治ノ創設ニ由リ其ノ目的ヲ達シタルナリ蓋專制君主國ハ彼ノ四隅ニ割據セル州會ヨリモ有力ナルハ勿論ニシテ明君賢相上ニ在リ國家ハ國民全體ノ組織機關ナリ

云フ新思想ヲ實行シタルニ於テ殊ニ以テ然リトス其ノ最速カニ之ヲ實行シタルモノハ佛國トシ又特ニ鑑鑑トスヘキハフリードリヒ、ウヰルヘルム第一世後ノ李國トス其ノ李國財政ノ整理發達ハ他日此ノ國ノ隆盛ヲ致シタルコト功アルコト恐ラシクハ其ノ軍事上ノ發達ニ讓ラサルヘシ故ニ此ノ大陸ニ在リテハ君主ノ財政漸ク其ノ力ヲ振ヒ終ニ等族ノ財政ヲ併呑シタルモノナルヲ見ルニ足レリ而シテ英國ニ在リテハ全ク其ノ反對ノ方向ヲ以テ克ク統一ノ目的ヲ達セリ夫英國ノ王國議會ハ州議會ノ之ニ相對立スルモノアルナク又財政上上下下兩院ノ間其ノ軌轢シ之カ爲其ノ力ヲ微弱ナラシメタルカ如キコトモ亦之レナシ而シテ其ノ敵手タル王位ヲ見レハエリサベイト以後其ノ位ヲ嗣キンモノニシテ有爲賢明ルナハ唯一人アリタルノミ故ニ英國ニ於テハ出納總裁ノ官ヲ變シテ出納委員トセシヨ(千七百十四年)由ルト云フモ其

ノ實特有財産及殆ト總テノ王領地ヲ議院制ノ國家ニ讓リ(千六百六一年及千七百六十年)以テ財政ヲ統一シ且之ヲ議院ノ手ニ歸セシメタルナリ其ノ他ノ小國家(固ヨリ餘リニ小サクシテ國家ノ名ヲ籍スヘムラサルモノアリ)ニ於テハ久シク中古風ノ財政兩立主義ヲ保維シ甚ンキニ至リテハ最近ノ時代ニ至ルマテ之ヲ存セシモノアリ而シテ其ノ之ヲ存セシ理由ハ概テ財政ヲ統一シ盡セハ則君主ハ爾後其ノ私有ノ資産ヲ失フコトヲ恐レシカ故ナリ

第百九十六章

中央集權ノ制ヲ完行シタル國ニ在リテハ必ス大藏省ノ設ケアリ以テ國家ノ歲入ヲ統理シ且各行政部局歲出ノ使用上敢テ直接ノ關係ヲナスコアラスト雖其ノ財政全局ノ上ニ於テ歲出ノ拂出ヲ掌ル所ノ大機關トス而シテ大藏大臣ハ自餘ノ政務ニ關スル法律ノ議案令章ノ發布其

ノ他行政上ノ行爲ニ就キテハ其ノ責ニ任セスト雖國家財政ノ法律ヲ
 循行シ且國民經濟上ノ力ヲ枉害セサルノ責ニ任セサルヘカラス又其
 ノ主管事務ニ關シ令章ヲ發布シ或ハ普通ノ國務ニ參議スルノ權利ハ
 姑ク之ヲ論外ニ措キ大藏大臣ハ豫算立案上特ニ有効ナル議定權アリ
 且立憲國ニ在リテ豫算科目ノ超過ニ關シテハ主任大臣ノ外大藏大臣
 モ亦共ニ君主ト國會トニ對シテ其ノ責ニ任スヘキヲ以テ國家ノ行政
 全體ノ上ニ就キテ常ニ監督ヲ行フノ權アリ凡大藏大臣ノ任ニ適ス
 者ハ非常ニ博識多才ナルヲ要スルモノニシテ尋常高等ノ官吏タル者
 ノ有スヘキ天賦ノ才智教育上ノ學識及堅固ノ思想ヲ闕クヘカラス
 ハ勿論其ノ見聞博クシテ能ク各大臣ノ協議ニ與カリ其ノ得失ヲ辨
 ルノ能力ヲ具ヘサルヘカラス又行政ノ大綱ヲ指揮監督スルノミナ
 ス自ラ其ノ事ヲ執ルノ能力ヲ必要トスルコト他ノ大臣ヨリモ一着

高度ニ居ラシメサルヲ得サルヘシ聞ク無智ノ蠻民ハ樹枝ニ結ヘル菓
 實ヲ看テ之ヲ獲取セント欲シ直ニ其ノ樹ヲ剪伐スト苟モ大藏大臣
 ル者ハ商務工部大臣ニ於ケルカ如ク深ク國民經濟ノ情態ヲ研究シ國
 家財政ノ全體ニ關スル所ノ經濟上ノ利害ト國家ノ營利業及相場會所
 取引ノ繁閑等其ノ實地ノ考察トヲ基礎トシ以テ其ノ政略ヲ定ムル
 アラサレハ彼ノ無智ノ蠻民ニ類スルノ驕リヲ免レサルニ至ラン但人
 藏省ニ取リテ其ノ關係ノ最疎遠ナルハ軍務及概シテ外交事務ナル
 如シ故ニ外交事務ニ最秀拔ナル政事家ハ財政ノ長者ニアラス又ハ之
 ニ反對スルコト其ノ例ニ乏シカラサルナリ(リッヘリュー)又ハフリー
 リヒ、ウ、ルヘルム第一世、グランドストーン)夫外交事務殊ニ軍
 事政畧ニ仕
 リテ其ノ著大ナル効績ヲ致ス所以ノモノ概テ安危ノ繫ル所ノ人物ト
 時機トヲ觀ルニ最敏捷ニシテ且速ニ事ヲ決シ所謂迅雷耳ヲ掩フニ暇

ナカラシムルノ能力アルヲ以テ第一トス而シテ大藏大臣ハ之ニ反シ
重モニ數年ノ平均ト事ノ永續トヲ主眼トシテ事務ヲ處理スヘキモノ
ナレハ則其ノ事務タル急性ノモノニアラス却リテ事ノ秩序整然タ
ラ期スヘキナリ是ヲ以テ縱令其ノ形式上ニ過キスト雖モ内閣ニ於
首班ノ席ヲ大藏大臣ニ與フルヲ得ルハ誠ニ泰平無事ノ時ニ限ルヘキ
カ

稍大ナル大藏省ニ在リテハ各別ナル事務ヲ擔理スル所ノ各局ノ外特
ニ大臣ノ官房ヲ置キ以テ大臣直接ノ事務ヲ準備シ或ハ之ヲ實行セ
ムルヲ常トス又大臣ハ何程獨決主義ヲ執ルト雖時々總會ヲ開キ省中
ノ列員相會シテ各員ノ行務ヲ刺擊シ且其ノ專恣ヲ抑制スルノ基トナ
リ得ヘキ省議ヲ定メ兼テ大臣ノ偏頗心ヲ防クハ到頭該省ノ爲利益ヲ
得ルコト疑ヒナシ又稍獨立ナル管理局ヲ設シルハ特ニ技術的ノ素質

アル事務ノ爲ニスルコト常ニシテ其ノ之ヲ獨立ナラシムルハ大臣ノ
權利ヲ制限スルニアラスシテ唯其ノ責任ヲ輕クスルヲ目的トスル
ニ近頃一定ノ國家ノ營利事業ニ關スル管理局ハ之ヲ大藏省ヨリ分離
スルニ至リタリ然ル所以ハ該事業タル財政上ニ於ケルヨリモ事口區
民ノ經濟上ニ於テ重要ナリトセシニヨルナリ
中等ノ財務廳(地方段廳)ニ在リテハ事務ノ分業ハ之ヲ重モナル目的ト
セス專ラ其ノ地方區域及官吏ヲ標準トスルコト常ナリ例ヘハ學國ニ
於テ官價地森林及直税ノ事務ハ縣廳ノ財務部ニ於テ之ヲ掌トリ州間
税及關稅管理局ハ縣廳ニ並立スト雖州長ノ監督ノ下ニ居ルカ如シ興
太利及波巴里皆之ニ類セリ又細密ナル事務章程ヲ定メテ其ノ事務ヲ
執ラシムルヲ得ヘキ營利事業ニ在リテハ特ニ中等財務廳ヲ置クノ必
要ナシトセシ國勢カラサルナリ

下等財務廳(局部段廳)ハ人民ト直接ニ交通シテ收支ヲナスモノニシテ位地及技術上ノ必要ヨリシテ其ノ規外ニ出タルモノ、外ハ固ヨリ分業ノ法ヲ用ユルコト最妙ナシ町村團體ノ發達セル國ニ在リテ直税ハ町村廳ヲシテ之ヲ徵收セシムルハ確實ニシテ且費用ヲ節スルノ益アリ且町村團體ノ發達ヲ謀ルノ一助トナルヘシ英國ニ於テハ調査評定ノ上ニ徵收スル租税ハ町村團體ノ獨立ナル機關ヲシテ之ヲ徵收セシメ官吏之ニ與カラサルヲ以テ原則トス之ニ反シテ佛國ノ縣收稅官ヲ以テ銀行ノ如クニ利用セントスル制度ハ彼ノ有益ナル自治主義ノ實アルモノトスヘカラス却リテ此ノ制度ハ佛國財政ニ於ケル二個ノ頗ル危險ナル特性ノ存スル所ナリト云ハサルヲ得ス特性トハ何ツヤ即佛國ニ於テ殊ニ徵稅請負期限ノ延長ナルコト及佛國ノ自由主義ニ於テ富者カ貧者ヲ壓スルノ嫌甚シキコト是レナリ

第二項 豫算出納、決算及監督法

第百九十七章

稍大ナル一私人若ハ一會社ノ經濟ニ於テハ皆收支ノ平均ヲ失ヒタルニ由リ突然不慮ノ困難ニ陥ルコトナカラシムル爲且ハ經濟全體ノ各部分相互ノ關係及其ノ資産全體ニ對スル關係ヲ以テ整然通覽スルコトヲ得ンカ爲最近ノ經濟年度中ニ於テ豫期ノ收入及支出ヲ見積リ次序井然數字ヲ以テ之ヲ表出スルコト(豫算ヲ立ツルコト)最緊要ニシテ國家ノ政府ニ在リテハ此ノ豫算ハ殊更必須ナリトス蓋其ノ收支科目ハ皆極メテ緊要ナルモ常ニ廣大繁雜ニシテ其ノ之ヲ通覽スル困難ナルノミナラス且其ノ科目ハ權利義務ニ關スル問題ノ由リテ生スル所タルコト立憲君主政治ノ國ニ於テ殊ニ多ケレハナリ彼ノレーベルヒ氏ノ世人ハ豫算ニ價值ヲ付スルコト過當ナリト云ヘルカ如キハ今ク

其ノ議院ノ豫算承諾權アルコトヲ忘レタルモノナリ豫算ニ總計豫算及純計豫算ノ二種アリ純計豫算ハ總収額ノミヲ囑セ總計豫算ハ其ノ徵収費ヲモ合セテ載スルモノナリ而シテ純計豫算ハ要スルニ舊制ニシテ其ノ一地方ニ限レル所ノ政務ニ關スル費用ノ最大部分ハ一地方ノ收入殊ニ現物収入ヲ以テ之ヲ辨シ其ノ過剩ノミヲ國家全般ノ收入トナシタル時代ニ適當スルヲ以テ方今ニ至リテハ各國概テ總計豫算ノ制ヲ執レリ此ノ制ハ租稅ニ關シテハ人民ノ負擔ニ屬スル實額ヲ明示スルヲ得國家ノ營利事業ニ關シテハ其ノ營業ノ利害得失ヲ判然ヲラシムルヲ得爲ニ豫算ヲ承諾シ且之ヲ監督スル國會ノ便宜且勢力ヲ加フルヲ以テナリ其ノ他豫算ヲ分テテ國家財政全體ノ爲立法體ニ於テ豫定スル所ノ總豫算收入ノ各種類及支出ニ於テ獨立ナル一行政當局ノ爲ニ定ムル別豫算及監督ノ官衙ヲ爲スル局部豫算ノ三種ト

ス概シテ之ヲ論スルニ財政ニ於テ中央集權及公行主義ヲ實行スルコト多キニ隨ヒ豫算及出納ハ愈統一ニ歸スルモノナリ又豫算ニ於テ經常臨時ノ二部ヲ分ツコト常ナリ此ノ區分法ヲ詐用シ臨時ノ歳入ヲ經常トシ經常ノ歳出ヲ臨時トシ一時財政ノ實況ヲ隱蔽シ以テ之レヲ修飾スルノ弊往々之レアリ然レトモ國債軍事債金財產拂下等ニ由リテ生スル所ノ歳入又ハ戰鬪費及國家ノ起業資金等ノ如キ歳出ヲ以テ臨時ノ出入トシ正當ニ此ノ法ヲ使用スルハ管ニ事理ノ自然ニ適スルノミナラス復不斷財政ノ實況ヲ觀察スルニ於テ最必要ナリトス

第四百九十八條

凡國會ニ於テ豫算ヲ豫定スルニ際シ殊更重トスヘキ問題三個アリ
 (第一) 豫算ハ幾何ナル期限ノ爲ニ之ヲ確定スヘキカ
 豫算期限ハ永キニ隨ヒ豫算ヲ議定スルニ愈多クノ時ヲ要シ其ノ

定ノ歳入歳出(殊ニ國家ノ營利事業ヨリ生スル收入)ハ愈々實際ニ適セス
 シテ過剰ヲ生シ或ハ追加豫算ヲ要スルコト益々頻繁ナルヘシ而シテ其
 ノ過剰ヲ生スルハ則豫算ヲ承諾スル所ノ國會ノ權力ヲ毀傷シ追加費
 算ヲ要スルハ則財政ノ秩序ヲ紊亂ス蓋毎年豫算ヲ承諾スルノ法ヲ取
 ルモ尙且其ノ豫算ノ實際ニ對シテハ往々差違アルヲ免レサルナリ甚
 曾テ波巴里ニ於テ實行セシ六ケ年ヲ以テ豫算期限トスルノ法ヲ行
 ハ必ス其ノ歳入ハ之ヲ格外少額ニ見積リ歳出ハ之ニ反シ必ス格外多
 額ニ見積リ後遂ニ其ノ過剰アルニ至レハ則恣マニ之ヲ使用スルノ弊
 害ハ到底免カルヘカラサルヘシ

(第二) 豫算ハ豫算期限ノ始期ヨリ幾何前ニ之ヲ議定スヘキカ
 一ノ豫算議定後其ノ豫算期限ノ始期ニ至ルマテノ時日モ亦其ノ永キ
 ニ隨ヒ豫算ヲ確實ナラシムルコト愈々難シトス

夫豫算上全ク見積リナキ科目ノ爲又ハ其ノ見積額少ナキニ失シタル
 科目ノ爲數多ナル臨時豫算又ハ追加豫算ヲ要シタルハ則佛國ニ於テ
 ルーイフリップ以來屢々見ル所ノ弊ナリ抑此ノ弊タル其ノ豫算ヲ關製
 シテ之ヲ提出スルノ期限餘リ早キニ過シタルト議院制ノ主義ヲ誤解シ
 テ各代議士ニ歳出増加ヲ發議スルノ權利(英國ニ於テ此ノ權利ハ政府
 ノ專有トス)ヲ與ヘタルトニ起因セリ且世上景氣ノ盛ナル時ハ租稅等
 ノ歳入ヲ増スコト常コシテ一時之ヲ増シタルニ方タリ其ノ後年ノ豫
 算ヲ見積ルニ就キテハ實際深ク注意ヲ加ヘサルヲ得ス然ルニ或ハ此
 ノ如キノ増加ヲ見以テ忽チ之ヲ其ノ後年豫算ノ標準トナシタルコト
 亦之レナキヲ保スヘカラサルナリ

(第三) 豫算ハ如何ナル分度マテ之ヲ區分セサルヲ得サルカ
 豫算ノ區分精細ナルトキハ之ヲ承諾スル所ノ國會ハ愈々直接ニ國家

政務ニ干與スルヲ得ルノ理ナリ然ルニ國會ハ之ニ干與スルカ爲必要トスル丈ケコ行政ノ詳細ヲ知ルコトアルモノ稀ナリ是ヲ以テ假令非凡ノ辯舌家ニアラサルモ眞ニ實際ノ事情ヲ識別シテ精密ニ豫算案ヲ審査スルノ能力アル代議士ハ國家ノ爲最モ有益ナルモノナリ若國會ニ於テ實際ヲ斟酌セスシテ之ヲ議定スルコトアラシカ政府ハ一旦確定シタル豫算ハ之ヲ遵行スルノ義務アルカ故ニ若其ノ少額ニ檢束セラルトキハ實際上ノ困難アルヲ慮リ毎科目常ニ少ナキニ過クルヨリモ筆口多キニ過キテ之ヲ請求スルノ惡弊ヲ生スルコト容易ナリ若此ノ惡弊ヲ防カントセハ宜シク豫算ノ全部ヲ分チテ(ア)トナシ適宜其ノ多寡ヲ定メ而シテ每款内項以下甲ノ科目ニ剩餘アレハ以テ乙科目ノ不意ニ生シタル不足ヲ補填スルノ法ヲ以テスヘシ彼ノ王政復古及幕府第三世ノ時代ニ於ケルカ如ク國會ハ一大臣ノ提出セル豫算

全體ニ就キテ之ヲ可否スルヲ得ルノミナルトキハ則國會ハ愛ニ無精神ノ一塊物トナルニアラサレハ亦狂愚ノ所業ヲナサ、ルヲ得サルノ地位ニ立ツモノト謂フヘシ曾テアドルフ、ワグネル氏ノ論セシカ如ク豫算ニ於テハ其ノ提出ト議決トハ宜シク之ヲ區分スヘシ即其ノ提出案ハ政府ニ於テモ亦國會ニ於テモ深ク注意シテ之ヲ審査シ且之ヲ審查スルヲ得セシムル爲餘リ詳細ニ過クルコトアルヘカラス而シテ議決ヲナスニハ期後ニ嚴重ノ監督アリ期前ニハ深ク之ヲ信セスト云フチエー氏ノ主義ニ基クテ以テ最良ノ方法トス殊ニ軍事ノ如キハ今日ノ進ノ勢アリ苟モ其ノ歩ヲ止ムルトキハ則國家ノ安危ニ關ス故ニ其ノ經費ハ總額ヲ以テ承諾スルコトヲ勸奨ス否吾輩ハ其ノ數年ノ分ヲ束テ承諾スルコトナヘ之ヲ勸奨セント欲スルモノナリ蓋總體ニ於テハ良政府ト云フヘキモ其ノ國會ニ對シテ之カ爲必需ノ信用ヲ有シ

サルトキハ即該政府ハ必ス自ラ議院制ノ事務ニ慣熟セサルコトヲ得
スルニ非スンハ或ハ其ノ國民未タ議院制ノ憲法ヲ奉スルノ力ヲ具ヘ
サルコトヲ證スルモノト云ハサルヲ得ス是ヲ以テ科目ノ流用ヲ許セ
ル場合ニ當タリ政府ニ於テ特ニ國會ノ追承諾ヲ要スルハ一款ノ全額
ニ超過ヲナシタル時ニ限り又之ニ反シテ一款ノ全額ニ就キ節約ヲナ
シタルトキハ宜シク最近ノ豫算ニ於テ之レヲ歳入トナスヘシ但其ノ
追承諾ヲ求ムルニ當タリテハ必ス特命ニ出タル費用ト法律上ノ義務
ニ屬スルモノトヲ區別スルヲ以テ常トス是皆其ノ信用ニ關スルモ、
ナルヲ以テ篤ク意ヲ致スヘキヲ要ス

以下國會ニ於テ豫算案ヲ議スル手續ヲ畧説スヘシ英國ニ於テハ總理
大臣ノ提出セル豫算ヲ議スル爲下院舉リテ其ノ歳出ニ關シテハ歳出
調査委員トナリ歳入ニ關シテハ歳入調査委員トナリ以テ之ヲ審査ハ

(但會議ハ公開セス)而シテ各議員皆自由ニ其ノ審査ニ喙ヲ容ル、コト
ヲ得ヘシト雖實際ニ於テハ其ノ事務ニ慣熟セル所ノ少數ノ議員之ヲ
ナスコト常ナリ蓋英國ニ於テハ其ノ歳入歳出ノ多分ハ法律上既ニ確
定セルカ爲此ノ手續ハ以テ實際ノ便宜ニ適セリトナスヲ得ヘシ大陸
諸國ニ於テハ先ツ審査委員ヲ組織シテ之ヲ豫議セシメ而ル後總會
ヲ開クノ順序トス其ノ總會ニ於テ財政ニ通曉セル小數者適宜ノ勢
力ヲ得ルト否トハ多數者ノ德義心ニ關ス若小數者適宜ノ勢力ヲ得
ルトキハ其ノ會議ハ管ニ不完全ナルノミナラス委員タリシ小數者
會議ニ向ヒ頻々辯論ヲナサ、ルヲ得サルカ故ニ議事頗ル冗長トナル
ノ嫌アリ而シテ大體上ヨリ之ヲ觀察スルニ政府ノ提出セタル豫算ハ
國會ニ於テ削除修正スルコト尠キヲ常トス然レトモ是決シテ國費
尠ニ關スル國會ノ勢力微弱ナルカ故ニアラス其ノ勢力ハ却リテ不

頗ル強大ナリ是ヲ以テ政府ニハ通常勤儉論者ト奢侈論者ト相兩立スルモ其ノ豫算ヲ立案スルニ當タリ勤儉論者常ニ強大ナル勢力ヲ有セリ是實ニ國會ノ審査ヲ要スルノ刺戟ニ由ルヲ見ルヘキナリ上下兩院制ノ國家ニ於テ上院ノ豫算ニ關スル權力下院ヨリ微弱ナルハ多少昔日貴族輩ノ免稅權ヲ有シ居タルニ起因スト雖其ノ重因ハ近世益々貴族ノ元素ヲ輕シ庶民ノ元素ヲ重ニスルノ氣運ニ向ヒ爲ニ此ノ關係ニ於テモ亦總テノ有機體ニ於ケルカ如ク一ノ結果更ニ他ノ原因トナリ互ニ相待チテ活動スルモノナリ

第百九十九章

財政統理ヲ一ニ歸スルノ主義ヲ完行スルトキハ則金庫ノ組織モ亦統一ナラシメ終ニハ國庫ノ收入金庫ト支出金庫トノ關係ヲシテ宛モ人體ノ靜脈ト動脈トノ關係ノ如クナラシムルニ至ルヲ期スヘシ例ヘハ

鐵道郵便專占事業等ノ如ク國家營利事業ノ技術ノ自然ニ出テ多少特異ノ管理ヲ要スル收入金庫ニ在リテモ金庫統一ノ主義ニ於テ皆少ナクトモ定期ニ現計書ヲ中央ノ金庫ニ送り以テ不斷收入及現金ノ景況ヲ報告シ且其ノ剩餘ノ處分ニ關シ中央金庫ノ命令ヲ受クルコトヲ必要トス是ヲ以テ下等(局部)及中等(地方)ノ金庫ハ中央金庫ノ機關トナヘキナリ今此ノ統一主義ヲ實行スルニ於テ其ノ金庫ノ組織法三アリ第一ヲ國庫統一法トス此ノ組織ニ於テハ各個ノ金庫ハ各行政部局ノ金庫ニシテ一地方ニ唯一個ノ金庫ヲ置キ以テ其ノ地所在ノ各官廳ヲシテ皆此ノ一金庫ニ向テ命令ヲ發シテ之ヲ執行セシムルモノトス第二ヲ行政部局金庫法トス此ノ組織ニ於テハ一行政部局毎ニ若干數ノ金庫ヲ固有セシムルモノトス第三ヲ各廳金庫法トス此ノ組織ニ於テハ各官廳毎ニ其ノ命令ヲ執行スヘキ金庫ヲ特設スルモノトス凡此

三組織法中第一ハ其ノ統一ノ主義ヲ實行スルニ最適當ニシテ論理ト其ノ實効ヲ奏スル最多キハ固ヨリ論ナキナリ然レトモ國家ノ廣大ナル技術的營利事業ノ一種特異ナル所アルカ爲此ノ法ニ於テハ彼ノ有益ナル總計豫算ノ制ヲ實行スルコト極メテ困難ナルヲ以テ巨多ノ格カヲ用ユルニアラサレハ其ノ目的ヲ達スヘカラス要スルニ金庫ハ可及的現金ノ送付ヲ減少シ且可及的無用ノ現金ヲ金庫ニ蓄積セサル様ノ方法ヲ以テ相互ニ交通スルヲ肝要ナリトス而シテ其ノ銀行ヲシテ之カ爲ニ非常ノ勢力ヲ得セシムルノ恐レナキニ於テハ銀行ノ補助ヲ籍リ例ヘハ英國ニ於テ英國銀行カ國債ニ關スル金錢出納ノ全體ヲ擔當シ且國家收入金庫ノ剩餘モ亦通常ハ之ヲ引受ケ以テ保管スルカ如キ制度ヲ用ヒハ其ノ目的ヲ達スルコト最易カルヘシ且一地方ニ於テ徵收シタル收入ハ可及的其ノ地方ニ於テ支出スルコトヲ務ムルハ則

政術ノ爲ニスルノ外他ニ尙著大ナル効驗アリ蓋國民經濟ノ全體上於テ生産消費ノ消長ハ金融ニ關係スルコト大ナルカ故ニ是ニ由リ欲ノ有害ナル國民經濟ノ中央集的ニ對シ幾分カ之ヲ防阻スルヲ得ルニ理アレハナリ

稍大ナル金庫ニ於テ通常任用スル人員ハ金庫長一名之ト連署スル監査官一名簿記員一名若ハ數名現場金錢ノ出納ヲ取扱フ出納吏數名及書記小使若干名ナリトス李國ニ於テハ此ノ内簿記員モ亦豫算超過ノ責ニ任ス又右諸官吏ノ提出スヘキ身元保証金ノ額ハ各其ノ金庫ニ貯蓄スル現金ノ平均額ニ準シ通常内國ノ國債券ヲ以テ之ヲ提出セシノ其ノ利子ハ以テ本人ノ所得トナス彼ノ官金ハ帳簿ヨリ切取り其ノ部分ヲ帳簿ノ内ニ殘シ置クヘキ受領証ニ代フルコアラサレハ之ヲ結入スヘカラストノ佛國ノ規定ハ其ノ事務ヲシテ簡單ナラシムル爲

著シキ効力アリ金庫ノ検査ハ不意ニ之ヲ執行シ且同一ノ地ニ數個ノ金庫アレハ各金庫同時ニ之ヲ執行スルニアラサレハ則其ノ目的ヲ達スヘカラス又其ノ検査ノ時帳簿上存スヘキヨリモ多クノ現金アルコトヲ發見セハ之ヲ臨時収入トナスヘク若又其ノ不足アルトキハ速ニ其ノ必要ノ手續ヲ實行スヘシ

貨幣本位ニ混交ヲ生シ之ヲ救済スヘカラサル國ニ於テハ其ノ金銀ノ間ニアルト軟硬貨ノ間ニアルトニ別ナク國庫ハ固ヨリ其ノ價格ヲ減シタル貨幣ヲ以テ其ノ租稅等ヲ收納スルヲ拒ムヲ得ス斯ル時ニ於テ國庫モ亦其ノ義務ヲ果タスニ於テ此ノ貨幣ヲ以テス今此ノ現像ヲ深ク研究スルトキハ則一ハ豫想外ノ租稅輕減ニシテ一ハ些少ノ仕拂下能ヲ隱蔽スルノ實アルモノナリ然レトモ其ノ事情ニヨリ國家ニ於テ仕拂フ所ノ幾分ハ本來ノ價格アルモノ即今ハ其ノ價格ヲ減シタル貨

幣ヲ以テスルヲ必要トスルコトナシトセス故ニ例ヘハ本位混交ニシテ實際紙幣モ本位ヲ爲スニ至リタル國ニ於テハ租稅殊ニ關稅ノ一部分ハ硬貨ヲ以テ之ヲ納附セシムルコトアリ

第二百章

夫決算ノ目的ハ金庫ニ於ケル金錢ノ出納及現金ヲ帳簿ニ登記シ數字ヲ以テ整然之ヲ表明スルニ在リ凡出納ヲナスニハ先ツ豫算ニ基キテ命令ヲ發シ金庫ハ此ノ命令ニ據リテ金錢ヲ納受シ或ハ之ヲ拂出スルノナレハ(ヲル)ト(ト)ニ(ト)ニ(ト)ニ簿記モ亦命令應ニ於ケル命令簿記及金庫ニ於ケル出納簿記ノ二段ニ分クサルヲ得ス夫證憑書ノ完備及口坐區分ノ明確ハ決算全體ノ確否ノ關スル所ナリ又金庫簿記ノ完全ヲ期スルニハ則三種ノ計算書ナカルヘカラス其ノ第一ハ調定額計算書ナリ是ニハ豫算ノ規定又ハ其ノ後ニ發セラレタル個々ノ命

令ニ從ヒ金庫ニ於テ實行スヘキ収入及支出ヲ載スルモノナリ第二ハ現額計算書ナリ是ニハ日記簿ニ基キ實行シタル収入及支出ヲ載スルモノニシテ其ノ額ハ調定額計算書ニ豫期シタルヨリモ少ナキコト常ナリ第三ハ殘額計算書ナリ是ニハ調定額計算書所載ノ條項中現額計算書ヲ締切ル時マテ實行スヘカラザリシモノ(収入未納額支出未済額ヲ載スルモノナリ)又帳簿中最緊要ナルモノヲ舉クレハ第一ハ日記簿ニシテ月日ノ順序ヲ追ヒ命令ノ受領収入金ノ納入支出ノ拂出等總之ヲ實行スル毎ニ其ノ事實ヲ登記ス第二ハ原簿ニシテ秩序ヲ整齊シテ右ノ事實ヲ載ス第三ハ金庫現金簿ニシテ金庫ノ現金其ノ増減及貨幣ノ種類ヲ記スモノナリ凡是等ノ帳簿ハ改描又ハ錯誤ヲ豫防スル爲其ノ紙面ニ頁數ヲ付シ之ヲ製本シ又正誤ヲ要スルトキハ之ヲ正誤ヲル方法ヲ綿密ニ定ムルコト必要ナリ

商業者ノ最稱揚スル複記法ト國家ノ會計ニ於テ是マテ用ヒ來レル單記法ト何レカ優レルヤノ問題ハ大ニ世人ノ爭フ所ナレトモ他人ノ財產ヲ保管スル者(國家ノ財務モ亦之ニ屬スルコト勿論ナリ)ニ取リテハ複記法ハ其ノ成績ヲ通覽スルニ便ナラス寧ロ金庫現金ノ一變動ヲ唯一回帳簿ニ載スルヲ以テ足レリトスル所ノ單記法ヲ以テ優レリトスヘシ

夫金庫ニ於ケル出納ハ實際綿々繼續シテ間斷アルコトナク百般ノ活動體ノ生活ニ於ケルカ如ク平動靜止ナシト雖其ノ顛末ヲ通覽スルナ得ンカ爲人爲ヲ以テ一定ノ限界ヲ立テ過去ト未來ヲ分ツヘキ畫線ノ想像上ニ設ケサルヲ得ス(會計年度ヲ定ムルノ必要ヲ云フ)凡文化ノ相進歩セル國家ニ於テハ會計年度ノ終期ヲ何レニ定ムルモ一ナリ敢ノ其ノ始期ノ如何ハ財政ノ利害ニ影響スルコトナシ其ノ一國ノ經濟ニ

モニ農業ヨリ成ルノ日ニ在リテハ耕作ノ季節ヲ斟酌スルヲ良シトス
 レトモ一般ニハ之ヲ曆年ニ準スルヲ以テ最自然ニ適セリトスルヲ得
 ヘキ歟又會計年度ヲ以テ其ノ期限ノ長短ヲ始終一ニスルニ至リシハ
 誠ニ輓近ノコトナレトモ其ノ前後ノ比較ヲ使ナラシムル爲之ヲ必要
 トスルハ固ヨリ言ヲ待タス而シテ斯ク會計年度ヲ定ムル上ハ其ノ期
 限中ニ實行スヘクシテ實行スヘカラサリシ收入支出ハ未納若ハ未拂
 トシテ翌年度ニ繰越シ帳簿ニ載スヘシト雖通覽ノ困難ヲ防ク爲其ノ
 數年ニ渉ルモノハ適宜ニ之ヲ限リ帳簿面ヨリ除キ無限ニ繰越ヲナス
 コトナカラシムルヲ要ス。

第二百一章

財政ニ於テ監督ノ制ヲ設クルハ實ニ必要ナリ苟モ此ノ制ナキトキハ
 忽チ財政ニ於テ當務者ハ擅恣ニ流レ或ハ主管ノ金財ヲ竊取シ或ハ格

外ノ徵収ヲナスノ弊ヲ生スヘシ良シヤ此ニ至ラサルモ尙秩序ヲ壞亂
 スルハ疑フヘカラサルナリ彼ノ人爲ノ監督ヲ行フノ法ニ不同意ヲ唱
 ヘタルイ、モエーゼル氏ノ論ノ如キハ總テノ官吏カ互ニ其ノ人ト爲リフ
 知ル所ノ一小團體ニ適用シテ或ハ其ノ理アリトスルヲ得ルノミ有名
 ナル實際家レーベルヒ氏ノ國家會計學ノ教授書ヲ擯斥シタルカ如キ
 モ亦然リトスフラードリヒ大王ハ其ノ躬親ヲ重大ノ義務ヲ負擔シ又
 勢力ヲ有シタルニ由リ却リテ幾分カ學國財政監督法ノ發達ヲ支障ン
 タルスラモ尙其ノ措置ノ宜シキヲ得タルモノトナスヘカラス夫各上
 可應ハ其ノ隸屬應ニ向ヒ監査及検査ヲ實行スルハ既ニ普通監督ノ一
 タリ又財務ノ執行ヲナスコハ必ス相互ニ獨立ナル官吏二名共同セノ
 ルヲ得スト云フノ規則又ハ專制主治者財務ノ命令ヲ發スルニ於テハ
 其ノ奢侈及懈怠ヲ豫防スヘシト云ヘル規則ハ皆稍特別ニ屬スル監督

法ノ一ナリ國家ノ決算ヲ公ケニスルモ亦最普通ニシテ頗ル有効ノ監督トス蓋專制主治者ハ曾テ之ヲ公ケニスルヲ以テ己カ威嚴ヲ失フモノト思考シ居タリト雖却リテ今ハ輿論ト云ヘル銳眼ノ判斷力ヲ藉リテ國家ノ信用ヲ増進スルハ最緊要ノコトトナスニ至レリ若夫獨立ナル國家ノ一機關ヲシテ財政ノ全體ヲ検査セシメ以テ之ヲ實行スル所ノ監督ノ如キハ尙下文ニ於テ之レヲ論セン

第二百二條

財政上監督ノ目的異ナルニ隨ヒ左ノ三種ノ監督ヲ區別ス

第一 計算監督 此ノ監督ハ金庫検査ト並ヒ行フモノニシテ雷ニ金錢ノ出納ヲ取扱フ者ノミナラス復金庫ノ計算主務者ヲ對主トナシ計算ノ廉々其ノ証憑書ニ符合スルヤ否金額計數ハ正確ナルヤ否計算註明ニ關スル規定様式ヲ遵奉シアルヤ否ヲ審査スルニ由リテ其ノ目的

ヲ達ス

第二 行政監督 此ノ監督ハ命令應(ラルドナトール)ヲ對手トシ其

ノ命令ノ法律ニ對スル適否及命令事項ノ當否ヲ査定スルニ由リテ其ノ目的ヲ達スルモノニシテ直接上司ノ行政官廳ニ於テ其ノ事務ノ繁多ナルモノハ之カ爲特ニ二三ノ專問官吏ヲシテ以テ之ヲ行ハシメ而ル後中央廳ニ於テ必需ノ再検査ヲナスヲ最良法トス蓋此ノ法タル總テノ監督事務ヲ中央廳ニ集局スルノ法ニ比スレハ則其ノ費用ヲ要スルコト少ナシ且調査ノ精確ヲ保シ實務ニ通曉セサルニ起因スル無益ノ非難ヲ省キ概シテ下廳ヨリ上廳ニ向ヒ秩序ヲ整肅ナラシムルノ利尠ナカラス蓋財政ノ稍發達シテ其ノ繁雜ヲ致セル國家ニ於テハ專制政治ノ君主ト雖眞ニ國家ノ元首タラント欲セハ財政監督ヲナスヘキ最高等廳トシテ會計検査院ヲ設ケサルヲ得ス夫會計検査院ナルモノ

ハ大臣ノ不正ナル所業ニ對シテ君主ヲ保護シ又君主自己ノ權恣暴行ニ對シテ其ノ永遠ノ利益ヲ保護セサルヲ得サルモノニシテ苟モ其ノ目的ヲ完クセシメント欲セハ猶高等ノ裁判所ニ於ケルカコトシ其ノ獨立ヲ保セサルヘカラス就中該院ノ列員ハ裁判々決及法律上ノ規定ニ據ルノ外ハ其ノ官ヲ免スヘカテサラシメ事務ノ執行ニ合議制ヲ用ヒ列員ノ兼務ヲ禁ジ其ノ官等ノ昇進及俸給ノ増加ハ法律ヲ以テ之ヲ確定シ且其ノ列員ハ最高等行政廳ノ長官並ニ相互ヒノ間ニ親族ノ關係ヲナスヘカラサラシムル等ヲ以テ最モ緊要ノ件ナリトス

第三 憲法上ノ監督 此ノ監督ハ財政ノ憲法ニ對スル適否ヲ検査スルニ由リテ行ハルモノニシテ立憲制ノ國家ニ於テハ須臾モ缺クカラサルモノナリ此ノ監督モ亦組織ノ完備セル會計検査院ヲシテ之ヲ行ハシムヘキナリ蓋國會ノ委員ハ其ノ人ノ更迭頻繁ナルノ点ヨリ

スルモ既ニ此ノ監督ヲ實行スルノ任ニ適セス况ヤ政黨ニ偏頗スルト常ナルニ於テヤ而シテ會計検査院ハ其ノ政黨ニ對シ常ニ不偏不黨ノ位地ヲ占ムヘキモノナルヲ以テ其ノ列員ハ國會ノ議員トナルノ禁スヘク且政治上ニ濫用スルヲ得ヘキ權力ハ之ニ與フヘカラサルニ故ニ義務負擔ニ關スル該院ノ判決ハ其ノ儘執行ノ効力ヲ有スヘカニス又會計検査院ハ其ノ検査上發覺シタル所ノ不足額ハ之ヲ收入調定額ニ加フルコトヲ命シ其ノ徵收ヲ監視シ居ルノミニシテ一定ノ人ヲ指シテ賠償ノ義務ヲ確定スヘカラス凡命令ハ豫算及憲法ニ違背スルコトナキヲ監督スルニ當タリ其ノ仕拂前ニ於テ監督官吏ノ承認ヲ付シテ仕拂ノ効力ヲ生スルノ基トナス仕拂後ニ於テ尋常ノ検査ヲトストノ二法アリ其ノ第一法即期前監督ノ法ハ違犯ヲ未然ニ豫防スルノ長所アリ期後監督ノ法ハ之ニ反シテ違犯ヲ最高等廳ニ知ラシメ其

ノ正誤シ得ヘキモノヲ正誤スルノミ然リ而シテ期前承認ノ法ヲシテ
 其ノ實効ヲ衰セシメンニハ非常ノ費用ヲ要スル機關ヲ備ヘサルヲ得
 ス且之ヲ爲ストキハ其ノ行政廳ノ自由ヲ過當ニ檢制スルノ嫌アリ依
 リテ其ノ檢制ナカラシムルニハ其ノ命令廳ニ於テ若監督廳ノ意見ニ
 反シテ仕拂ヲ要ストスルコトアルトキハ之レカ假承認ヲナシ以テ仕
 拂ヲ實行シ而シテ其ノ命令廳ヲシテ特ニ其ノ責任ヲ負ハシムルノ活
 法ヲ設ケサルヲ得ス

又決算ノ責任解除ハ本來ナル法律ノ體裁ヲ以テ之ヲ公ケニスルモ亦
 單ニ國會ノ決議ニ據ルモ同時ニ豫算外支出ヲ追承諾スルヲ兼スルモ
 ノナリ而シテ其ノ責任ヲ解除スル前ニ於テ尙國家ノ動不動産ヲ証明
 スル所ノ財産目錄ヲ検査シ之カ監督ヲ行ハサルヲ得ス若此ノ監督ヲ
 缺クトキハ其ノ受入ニ非常ノ不足アリ又ハ其ノ補充ヲ怠リ實際ニ物

品ヲ存セサル事アリテ外觀ノ富實ハ却リテ内實ノ缺乏タルヲ免レツ
 ルカ如キコトアルヘシ

附錄 市町村財政

一 市町村ノ財政ト國家ノ財政トノ關係

第一章

國家ノ財政ハ公共ナル財政ノ最大最要ノ部分ヲ占ムルコト勿論ナレトモ其ノ全部ヲ成スモノニアラス即自治體殊ニ狹義ヲ以テ謂フ所ノ市町村ノ財政ヲ以テ之ヲ補ハサルヲ得ス是市町村財政ヲ特ニ講究スルヲ要スル所以ナリ

自治體ハ其ノ大小ヲ別タス皆公共ノ目的ニ關スルモ國家カ直接ニ執リ行フヘカラサル所ノ一定ノ職分ヲ有シ之ヲ實行スルノ責務アリ故ニ自己ノ資財ヲ有シ之カ經濟ヲ營マサルヲ得サルモノトス
凡國家ハ人民生活ノ變遷ヲ追ヒ且其ノ狀態ノ異ナルモノアレハ各之ニ適スルノ動作ヲナサンコトヲ務ムルハ勿論ナルヘケレトモ其ノ變

遷ノ頻繁ナル各地状態ノ異様ナル如何ニ之ヲ務ムルモ決シテ其ノ曰
 的ヲ完フスヘカラス殊ニ各市町村ノ異別ナル需用ヲ斟酌シ之ヲ悉ク
 満足セシムル能ハサルナリ
 國家ノ財政ハ國民國土全體ノ需用ヲ均一平等ニ給足スルヲ目的トシ
 市町村ノ財政ハ公共ノ性質ヲ有スト雖多少一地方ニ限ルノ事情アル
 需用ヲ給足スルヲ目的トスルモノナリ

第二章

市町村財政ト國家財政トノ關係如何ハ市町村ノ國家ニ對シテ有スル
 所ノ地位如何ニ由リテ定マルモノニシテ之ヲ詳論スルハ行政法ナリ
 トス
 國家財政ノ範圍ハ其ノ行政事務ノ消長ニ關スルカ如ク市町村ノ財政
 モ亦其ノ盡スヘキ所ノ行政上ノ責務如何ニ由リテ其ノ界限ヲ定ムハ

シ然レトモ二者大ニ其ノ性格ヲ異ニスルモノアリ今其ノ異ナル所ノ
 点ハ果シテ何レニアルヤヲ講究セハ則國家財政ノ市町村財政ニ對ヘ
 ル關係如何ヲ知ルニ足ラン夫國家ハ己レノ意思ヲ定ムルニ不羈獨立
 ナルモノナレハ則隨ヒテ其ノ目的及之ヲ達スルノ資料ヲ要ムヘキ財
 源ヲ專定スルヲ得ヘシト雖然レトモ市町村ハ國家有機體ノ一機關ノ
 ルヲ以テ其ノ使役ニ服セサルヲ得ス又市町村ハ人民ニ對シ強制權ノ
 有スト雖是唯國家ノ權利ヲ分與セラレタルノミ素ヨリ其ノ固有ノ權
 利ニアラサルナリ其ノ職分ノ如キ地方上ヨリスルモ事體上ヨリスル
 モ共ニ其ノ制限アリ以テ其ノ目的及之ヲ達スルニ供用スヘキ資金具
 ノ他權利義務等ニ至ル迄皆制限アラサルハナク且其ノ動作ノ重モノ
 ルモノハ皆國家ノ監督ニ服スヘキモノトス

第三章

市町村ニ對スル國家ノ普通監督ハ財政ニ於テ特ニ適用スヘシ
 國家ハ市町村ヲ組織スルト同一ノ人民ヨリ成ルモノナレハ市町村ノ
 財政其ノ宜シキヲ得ス濫リニ人民ノ資力ヲ虛奪スルカ如キコトアラ
 ハ即其ノ國家ノ財政ニ不利ヲ來スハ識者ヲ待タスシテ知ルヘシ是ヲ
 以テ國家ハ常ニ左ノ二点ニ注意セサルヲ得サルナリ

第一 國家財政ノ秩序ハ市町村財政ノ爲ニ紊亂セラル、コトナキヲ
 要ス例ヘハ市町村ヲシテ不羈自由ノ徵稅權ヲ得セシムルトキ
 ハ則容易ニ此ノ弊ヲ見ルコトアルヘシ

第二 市町村ハ公共ノ事業ニ障礙ヲ蒙ラシメ又ハ公共體ヲシテ貧窶
 ニ陥ラムシルノ起因トナリ得ヘキ處分ヲナスコトナキヲ要ス
 例ヘハ収益ヲ生スヘキ財産ヲ賣却シ又ハ巨多ノ負債ヲナスト
 キハ則忽チ此ノ弊ヲ生スヘシ又市町村ハ決算出納ノコトヲ以

テ等閑ニ付セサルヲ要ス

第四章

市町村ハ行政及財政ニ於ケル運動自由ナラスト雖一方ヨリ之ヲ考
 ルトキハ則其ノ盡スヘキ職分モ亦限リアリ夫國家ト市町村トノ職分
 ノ分界ヲ普通ニ定ムルコトハ固ヨリ爲シ得ヘキニアラス然レトモ市
 町村ノ職分ハ主トシテ内務行政及財政ノ範圍内ニ在ルモノニシテ而
 シテ其ノ事務ノ材料ヨリスルモ亦其ノ經濟ノ資料ヨリスルモ地方ノ
 區域ヲ以テ之カ限界ヲ立ツルコトヲ得ヘキ性質ヲ具フルヲ要スルノ
 一点ハ實ニ動カスヘカラサルノ原則ナリ蓋其ノ各國ニ於ケル狀態ハ
 各其ノ國ノ歴史、現行ノ法律國內市町村ノ區分及其ノ組織ノ方法及殊
 ニ市町村人民ノ公共事務ヲ處理スル能力ノ有無ニ由リテ異ナルコト
 固ヨリ論ナク要スルニ各國現在ノ事情ニ根底スルモノナリトス其

事情ノ如キハ下文ニ於テ之ヲ論セン

一 市町村ノ歳出

第五章

市町村ハ國家行政ノ各部局ニ於ケル事務ヲ執ルニ當タリ其ノ部局一ヨリテ獨立ノ分度一樣ナラス隨ヒテ其ノ事務ノ範圍モ亦自ラ異ナラサルヲ得ス夫市町村ノ毫モ外交事務ニ關係セサル又兵事司法及國家ノ財政ニ於テ其ノ行爲ヲ要スルコト極メテ少ナキカ如キハ皆其ノ事務ノ自然ニ出ツルモノナリ蓋市町村ノ事務ハ概テ内務ニ屬スルヲ以テ此ノ行政部局ニ於テ法律上市町村ノ擔理ニ付シタル事務最多シトス

市町村カ自己ノ資金ヲ以テ達セサルヲ得サル目的ニ二種アリ即其ノ國家ヨリ義務トシテ負擔セシメラルモノ及自己ノ任意ヲ以テ達

セントスルモノ是ナリ

第一 義務上ノ歳出ハ教育、貧民救助、道路、橋梁、消防等ニ關スルモノ一シテ之ヲ本來ノ地方限リノ需用トス此ノ外經濟上及其ノ他ノ事務上多少國家直接ノ職分ナリト雖一ハ特ニ一地方ノ事情ノ知悉シ或ハ一地方ノ利害ニ注意スルノ必要アルト一ハ一地方ノ補助ヲ籍ルノ必要アルトヲ以テ國家ヨリ殊更市町村ニ委任セラレタル職分尠ナカラズ即軍務ニ於テハ軍隊軍馬ノ屯營給養、補助馬匹及物品ノ供給、財務ニ於テハ課稅評定委員ノ組織、租稅ノ徵收、内務ニ於テハ保安、衛生及建築、警察、戶籍事務、人口調査等はナリ而シテ此ノ國家ノ代理者トナリテ市町村カ擔理スヘキ事務ノ爲ニ生スル所ノ費用ハ國家ヨリ概テ之ヲ賠償セラル、モノナリ

第二 市町村ハ其ノ資金ノ供給アルニ於テハ人民ノ經濟上及精神トノ利益ヲ獎勵發達スル所ノ設營事業ヲ自由ニ興起スルノ權利アリ是ノ故ニ義務上ノ目的ニ要スル所ノ歳出ノ外任意ノ目的ニ要スル歳出モ亦之レアリトス例ヘハ溝渠水道点火掃除市場屠獸場交通事業及裝飾等ニ要スル費用ナリ

義務上ノ職分ニ關シテハ國家ハ市町村ニ於テ其ノ義務ヲ果タスヤ否ヲ監督シ任意ノ職分ニ關シテハ人民ノ資力ヲ格外ニ要求スルコトナキヤ否ヲ監督ス要スルニ何レノ國ニ於テモ人民市町村ニ要ムル所益多キヲ加ヘ其ノ歳出ノ始終増加スルコト國家ノ歳出ニ異ナラス若夫何等ノ事務ハ市町村ヲシテ之ヲ擔理セシムヘキヤ又如何ナル方法ヲ以テセハ最良ク事務ヲ處スルヲ得ヘキヤノ問題ニ至リテハ須ク行政學ニ於テ之ヲ研究スヘシ

第六章

・市町村ノ需用ハ國家ノ需用ト同一ニ之ヲ類別スルヲ得ヘシ故ニ經常費及臨時費生産費及非生産費人事費及物件費ノ如キ各種ニ之ヲ區別スヘキナリ

然リト雖人事ニ關スル需用ハ名譽職ヲ置キ以テ之ヲ給足スルヲ得ルノ分度國家ニ比シテ遙カニ多シトス其ノ工役ニ關スル需用ニ在リノモ報酬ナクシテ強制的ニ之ヲ課スルコト亦多シ是村邑ニ於テ殊ニ然リトスル所ナリ之ニ反シテ市ニ在リテハ行政上其ノ需用ノ範圍廣人ニシテ名譽職ヲ置キ又ハ現役ヲ課スルモ未タ以テ満足ヲ得ヘカラム或ハ否ラサレハ人民各其ノ業務ニ繁劇ナルカ爲右ノ職ニ任シ又ハ現役ニ服スルノ暇アラサルヘシ今其ノ例ヲ舉クレハ名譽職ヲ置キテ市町村行政ノ事務ヲ執ラシメ道路修築土性改良等ノ如キ機械的ノ勞力

ヲ要スルトキハ則人民ニ其ノ現役ヲ課スル等ナリトス

三 市町村營利事業ノ歳入

第七章

市町村ノ歳入ハ國家ノ歳入ニ於ケルカ如ク土地又ハ作業ヨリ生スル所ノ純然私法上ノ性質アルモノニアラサレハ則又強制的ニ手数料又ハ租税トシテ人民ヨリ徴収スル所ノ公法上ノ性質アルモノナリ而シテ彼此ノ財源ヨリ生スル歳入ノ多寡ハ市ト町村ト大ニ異ナル所アリトス

土地及之ヨリ生スル歳入ハ昔時市町村殊ニ町村ノ財産中最大ノ部分ヲ占メタルモノニシテ近世多ク之ヲ賣却シタレトモ尙其ノ一部分ヲ存シ今日ニ至ラテハ法律ニ於テ國家ノ認許ヲ經ルニアラサレハ市町村有ノ土地ヲ賣却スヘカラスト規定セル國最多シ夫土地ヲ所有シ其

ノ収獲ヲ以テ需用ヲ給足セハ各個人ノ負擔ヲ重クスルコトナキカ故ニ其ノ目的ヲ達スルコト容易ナリト雖若租税ヲ以テ之ヲ給足セントスルトキハ則人民ハ直接ニ其ノ負擔ヲ感スルカ故ニ自ラ之ヲ怠ルノ理ナルコトヲ考フルトキハ此ノ法律ヲ設クルコト亦謂レナキコトナルヲ知ル可シ又市町村ニ於テハ森林ヲ所有スルコト最適セリ而シテ森林ニ在リテハ衆議ニ據リ濫リヨ林木ヲ剪伐シテ一時歳入ヲ増加シ以テ其ノ害ヲ後年ニ及ハシメ之ヲ回復スルニ由ナキノ弊ヲ生スルコト極メテ生シ易キノ事タリ故ニ國家ハ森林ノ栽培案ヲ檢査認定シテ其ノ遵守ヲ監督シ若ハ國家ノ官吏ヲシテ市町村有ノ森林ヲ經理シシメ以テ其ノ弊ヲ豫防スルコト性々其ノ例ナシトセス

市ハ随分廣大ナル家屋ヲ所有シ或ハ貸附ケ或ハ之ヲ自己ノ用ニ供ヘルコト極テ稀ナラス又其ノ市自ラハ漸次市府ヲ擴張スルニ當タリ早

ク家屋ノ敷地トナルヘキ見込アル所ノ土地ヲ買入レ他日相當ノ利益ヲ得テ之ヲ拂下グルノ權利ヲ有シ之ヲ實行スルコトハ經濟上ヨリスルモ財政上ヨリスルモ之ヲ勸奨スヘキ事タリ

市町村ハ麥酒製造、木挽水車、石材切出等ノ如キ純然營利ノ目的ニ出タル事業ヲ興起スルコト間マ之レナキニアラサレトモ其ノ事業ハ主トシテ公共ノ利益ヲ計リ市町村ノ職分ヲ完クスルニ裨益ヲ與フルノ目的ニ出ツルモノ最多シ例ヘハ瓦斯燈、水道、馬車鐵道等ニシテ國家ニ於ケル汽車鐵道及電信郵便ト稍其ノ趣旨ヲ同クス是等ノ事業ハ固ヨリ收益ヲ以テ本來ノ目的トスルニハアラサレトモ頗ル巨多ノ利益ヲ生スルコト稀ナリトセス

市町村ニ於テ是等ノ業ヲ經營スルトキハ一私人カ營業ヲナスノ餘地ヲ収縮スルノ嫌アリトシテ之ヲ非難スル論者アリト雖亦之ヲ是ト

ル者殊ニ瓦斯燈及水道ノ二業ニ至リテハ之ヲ市町村ノ經營トスルコト必要ナリト論スル者アリ而シテ之ヲ是ナリトスル論ハ其ノ證據之ヲ非トスル論ニ比シ大ヒニ明確ナリ今其ノ證據トナス所ヲ舉示スレハ則左ノ如シ

- 第一 是等ノ事業ハ街燈、道路掃除、撤水、消防等ノ如キ市町村ノ職分ト密接ノ關係ヲ有スルコト市町村ニ於テ之ヲ經理スルヲ必要トナスヘキ理由ノ最要重ナルモノニシテ市町村ハ其ノ職分ヲ盡ス爲ニ要スル事業ハ已レノ手ニ歸セシムルコト實際上最利便アリトスルハ固ヨリ疑ナシ
- 第二 其ノ業ヲ營ムニ確乎タル成規ニ依ルヲ必要トス
- 第三 市町村ハ道路ノ所有者タルヲ以テ其ノ事業ノ計畫ニ參與スルヲ要ス

第四 是等ノ事業ハ概テ大會社ノ專業トナスニアラサレハ興起スヘ
 カラサルモノナリト雖之ヲ其ノ市町村ノ經理トナストキハ則
 起業者カ獨リ収獲スル所ノ利益ヲ轉シ以テ公共ノ利益トナス
 ヲ得ヘシ而シテ其ノ目的ニ至リテモ敢テ害アルコトナシ

第五 市町村ノ人民ハ國家監督ノ力ヲ籍ルヲ以テ市町村廳ニ於テ其
 ノ事業ヲ濫用スルノ恐レナシ

四 手數料及租稅

第八章

人民及國家ヨリ市町村殊ニ市ニ對シテ要求スル所益多キヲ加フルニ
 隨ヒ愈私法上ノ收入ノミヲ以テ需用ヲ給足スルコト難クシテ人民ヨ
 リ強制的ニ資金ヲ徵求セサルヲ得サルコト愈多キヲ加フヘシ

市町村ノ人民ヨリ強制的ニ徵求スル貢租ハ國家ニ於ケルカ如ク手數

料及租稅ノ二種ナリトス

第一 手數料

手數料ノ定義種類及其ノ徵收法ニ關シテハ大體國家ノ手數料ヲ論シ
 シ所ニ據ルヘシ公共ノ機關ニ於テ一階級ノ人民又ハ各個人ノ利益
 爲ニ一定ノ利行ヲナシ而シテ大凡其ノ費用ヲ算定スルヲ得ヘキ場合
 ニ於テ手數料徵收ノ法ヲ實行スルヲ得ヘキトキハ則其ノ手數料ハ市
 町村ノ財政ニ於テ隨分廣シ之ヲ適用スルヲ得ヘク歳入中重要ノ一部
 ヲ占ムルニ至ルヘシ

夫市町村ト各個人トノ關係ハ國家ト臣民トノ間ニ於ケルヨリモ遙ル
 ニ親密ニシテ且頻繁ナルモノナリ其ノ市町村ノ最大ナル事務ヲ爲ス
 所ノ經濟上ノ事務ニ於テ殊ニ以テ然リトス又市町村ハ司法ニ關スル
 二三ノ事務モ亦之ヲ執ルコトナキニアラス其ノ之ヲ執ルニ當タリ

ハ其ノ利行ヲ起因シタル者ヨリ手数料ヲ徴収スルノ權利アルコト勿論ナリト雖市町村ノ事務ハ主トシテ内務ニ属シ其ノ義務上ヨリスルト任意ニスルト別タス人民ノ物質上ノ利益ヲ獎勵スルニ在リ今其ノ徴收スル所ノ手数料ノ最緊要ナルモノヲ舉クレハ學校手数料(即授業料ニシテ學校ノ資格ニ據リテ其ノ額ニ差等アリ)埋葬及墓地ニ關スル手数料(其ノ幾分ハ之ヲ此ノ事業ニ從事スル者ニ給スルコト勿論ナリ)轉籍及本貫手数料、市場及歳市等ノ手数料屠獸場及獸肉検査場手数料等ナリ是等總テノ場合ニ於テハ其ノ人民カ市町村立ノ設營及ハ其ノ吏員ノ行爲ヲ利用スルモノニシテ即之ヲ利用スル者ノ利益ヲ計ルカ爲其ノ者ニ於テ之カ行爲ヲ起因スルモノナリ

第九章

手数料ノ外尙一種ノ市町村人民ヨリ市町村ニ向ヒナスヘキ仕拂アリ

何ツヤ所謂助成金はナリ此ノ仕拂モ亦強制ニ出ツルコトアリト雖今日ニ行ハル、所ハ土地所有者ニ限リ其ノ義務ヲ負ハシムルノミニシテ道路ノ新開、改修、人工道修築、溝渠開鑿及水道開通等ノ助成ヲ目的トス而シテ其ノ手数料ト相異ナル所ハ其ノ額概テ遙カニ大ニシテ之ノ徴收スルハ單ニ一回ニ止マリ或ハ否ラサルモ極テ不規則ニシテ且常ニ不爲産所有者ヲ對手トナスニ在リトス

第十章

第二 租税

夫手数料ハ市町村ノ財政ニ於テ緊要ノ位地ヲ占メ且今後恐ラクハ向廣ク用ヒラル、ニ至ルヘキハ疑ヲ容ルヘカラサレトモ市町村ノ歳出ヲ辨給スル財源ノ最大部分ハ租税ナリトス市町村人民ト直接ノ關係ヲナサ、ルカ爲ニ手数料徴収ノ法ヲ適用スヘカラサルノ設營妙カフ

ス其ノ一定ノ階級ノミヲ利スルコト明カナル場合ニ在リテモ尙其ノ法ヲ適用スヘカラサルモノナシトセサルナリ又手数料ヲ以テ維持スヘキ設營官衙ト雖公共ノ利益ヲ謀ルカ爲コ之ヲ存スル以上ハ租税ノ收獲ヲ以テ其費用ノ幾分ヲ辨セサルヲ得ス學校及病院ノ家屋貧救院ノ構造裝置又ハ保安警察ニ關スル費用官吏ノ俸給歳入ノ徴收費湯治湯及土地修飾ニ關スル費用ハ其ノ全部若ハ其ノ最大部分ハ之ヲ租税中ヨリ辨給スヘキモノナリ

市町村税ニ關シテモ亦本書第三編國税ニ關シ論述シタル所ノ原理ヲ適用スルヲ得ヘキハ勿論ナリト雖彼此ノ間亦著大ナル差異ナキ能ス請フ左ニ之ヲ略述セン

市町村税ニ在リテハ納稅力ニ應シテ課税スルノ原則ノミヲ以テ單純ノ標準トセス尙利行報價ノ原則ヲ以テ多少之ヲ變更スルコトヲ得

キハ其ノ差異ノ最緊要ナルモノナリ夫報價說ハ其ノ吾人カ國家ヲ解釋スルノ意ニ背馳スルノ点ハ姑ク措キテ之ヲ論セス抑該說ハ其ノ實手数料主義ヲ普及ナラシメントスルニ外ナラサルモノニシテ斯ノ如キハ各階級人民ト數多ナル行政部内トノ關係ノ千差萬樣實ニ極ナリ且各個人ノ爲ニ起因シタル費用ノ算定スヘカラサルヲ以テ到底之ヲ實行スヘカラサルカ故ニ其ノ納稅力ニ應シテ課税スルノ法ハ國税ニ於テ最適當ナル法トナスヘキハ既ニ前編ノ租稅論ニ於テ之ヲ述ヘシルカ如シ然ルニ市町村ニ在リテハ稍其ノ趣ヲ異ニス良シヤ一般ニ之ヲ異ニスト云フヘカラサルモ其ノ一部分ニ於テハ大ニ異ナル所アリ蓋市町村ハ其ノ職分ヲ果タスニ於テ人民ノ各階級(租稅ニ就キテハ階級ヲ以テ之ヲ論スルヲ得ルノミ)カ享クル所ノ利益及其ノ各階級ト行政上ノ利行トノ關係ヲ明知スルヲ得ルコト極ナカラス而シテ之ヲ明

知スルヲ得ル限リハ報價主義ニ近キ課税法ヲ用ヒテ其ノ理アリト
ルヲ得ヘク又市町村ニ於テ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ハ自餘ノ人衆
ニ比シテ多量ニ市町村諸制度ノ利益ヲ収ムルコト普通ナリ是ヲ以テ
市町村ニ於テハ特種ノ方法ヲ以テ土地及家屋ノ收穫ニ課税スルノ必
要アリトシ且國家及市町村ハ共ニ國家ノ同一ナル職分ヲ盡サント
ルニ於テハ當サニ從資主義ヲ採ルヘク又市町村ハ特ニ經濟上ノ目的
ヲ達スルニ於テハ其ノ經濟上ノ利行ニ對シ報價主義ニ依リテ特ニ人
民ニ課税スヘキ等ノ原則ヲ設ケタリ

此ノ原則タル概スルニ正當ナルニハ相違ナシト雖市町村ノ經濟上
關スル總テノ制度ハ縱令各個ノ階級ニ屬スル人民又ハ各個人ニ益ス
ルコト多キニセヨ皆公益ノ性質アルコトヲ記憶シ此ノ原則ニ偏スル
コト勿ラシコトヲ要ス且夫市町村ニ在リテモ亦其ノ利益ハ決シテ精

密ニ秤量シ得ヘキモノニアラス夫ノ道路ヲ見ヨ管ニ其ノ路傍ニ住ス
ル地主ノミカ之ヲ使用スルニアラス尙之ヲ一般ノ交通ニ用ユルニア
ラスヤ又夫ノ瓦斯燈ヲ見ヨ之ヲ利用スルハ其ノ家主ニ限ラス仍街頭
ニ之ヲ點シ以テ住民一般ニ其ノ利ヲ享クルニアラスヤ

第十一章

市町村ハ國家ノ監督權ニ服シ租税ニ關スル措置ニ於テ大ヒニ其ノ自
由ヲ制限セラル是國稅ト市町村稅ト差異アル第二ノ要點ナリ夫何等
ノ租税ハ之ヲ課スヘキヤ又如何ナル額ヲ以テ之ヲ課スヘキヤハ之ヲ
市町村ニ放任スヘカラス若之ヲ放任センカ國稅ト市町村稅トノ間ニ
有害ナル競争ヲ生シ終ニ二重稅ヲ課シ或ハ租税ニ關スル各般ノ主義
ニ背馳スルニ至ルヘキノ恐レアリ故ニ國家ハ或ハ其ノ課税ノ權ヲ專
有シ或ハ某稅ニ在リテハ市町村ヲシテ之ヲ課スルニ其ノ認可ヲ受ケ

シメ又ハ其税ノ額一定ノ分度ヲ超過スルトキハ則其ノ認可ヲ受ケン
ムル等ヲ法トナスヘシ

第十二章

市町村税ヲ類別セント欲セハ宜ク先ツ之ヲ獨立ナル市町村税ト國稅
附加税トノ二種ニ分ツヘシ

獨立ナル市町村税ハ毫モ國稅ニ關セス全ク異別ナル財源ヨリ生スル
ヲ得ルモノニシテ固有ナル方法ヲ以テ之ヲ評定シ特別ナル税率ヲ止
メテ之ヲ賦課徴収ス而シテ此ノ税ハ収獲税所得税又ハ消費税タルノ
得ヘシト雖概シテ其ノ消費税ニ屬スルモノナリ

之ニ反シテ附加税ハ全ク國稅ニ準據スルモノニシテ國稅額ニ附加シ
タル其ノ歩合ノ増加タルニ過ス故ニ國稅ノ倍數又ハ百分數ヲ以テ其
ノ額ヲ定ム而シテ此ノ税モ亦各種ノ税ニ於テ之ヲ徵スルヲ得ヘシト

雖然レトモ彼ノ所得税及収獲税ニ於テスルヲ以テ最主要ナリトス
右市町村税二種ノ優劣ハ大ニ世人ノ爭論シムル所ナリト雖要スルニ
其ノ熟レカ是ナルヤ之ヲ普通ノ原則ニ照シテ論スルコト難シ
附加税ヲ稱揚スル者ハ謂フ附加税ハ徴収ノ費用ヲ減少スルコト著シ
ク且此ノ税ハ國稅ノ評定ヲ正シシスルノ刺撃トナルヲ得ヘシト
之ニ反對スル者ハ左ノ理由ヲ擧ク

第一 徴収ノ容易ナルコトハ市町村行政ヲシテ奢侈ニ陥ラシメ或ハ
少クモ其ノ支出ヲナスニ不注意ナラシメ中央集權ノ分度ヲ増
シテ危險ナラシメ且殊ニ國稅ト市町村税トノ限界明瞭ナラサ
ルニ於テハ一方ニ於テハ甚市町村行政當局者カ責任ヲ重スル
ノ精神ヲ減弱シ他ノ一方ニ於テハ人民ヲシテ國家ニ對シ如何
ナル義務ヲ尽スヘキヤ又市町村ニ對シ尽ス所ノ義務ハ如何ナ

ルヤチ知ルニ苦マシム

第二 國稅ハ元來不完全ナルモノニシテ其ノ不公平及不平等ナルニ
免レサルニ更ニ附加稅ヲ以テ之ヲ増加スルトキハ極テ其ノ危
險ナル結果ヲ生セン

第三 市町村ハ國家ニ相屬シ國家ハ市町村ノ附加稅ニ相屬スルノ關係
係アルカ爲其ノ租稅ニ改正ヲ加フル毎ニ必ス障礙アルヲ免レム
第四 附加稅ヲ以テ市町村ノ爲特ニ適當ナル財源ノミヨリ歲入ヲ徵
収スルコト固ヨリ難シ就中附加稅ヲ以テ彼ノ報償主義ハ之ヲ
完行シ得ヘカラス

附加稅及獨立稅ハ其ノ甲者ヲ用ユレハ則同時ニ乙者ヲ排除スヘシト
云フカ如キ正反對ノモノニアラス總ヘテノ市町村ヲシテ附加稅法ノ
ミヲ用ヒシメ又ハ之ニ反シテ獨立稅法ノミヲ採ラシムルカ如キハト

モニ誤謬ノ甚シキモノナリ其ノ執レヲ擇ムヘキヤハ各其ノ實際ノ狀
況殊ニ國稅ノ制度如何ニ據リテ之ヲ決スヘシ蓋國稅ノ制ニ於テ市町
村ノ財政ニ在リテモ亦關係ヲ有スヘキ財源ニ基ク所ノ稅ヲ容易ニ區
分ヲ得ヘキトキハ則之ニ反スルノ制アルニ比スレハ附加稅法ヲ實行
スルニ易キコト疑ナシ例ヘハ國家ノ直稅ハ主トシテ其ノ收獲稅殊ニ
地稅家屋稅及營業稅ヨリ成ルトキハ此ノ法ヲ實行スルニ易ク又其ノ
金利稅及勞銀稅ニ在リテハ稍難シ而シテ其ノ不動財產ニ關スル財產
移轉稅ニ在リテ最易ク其ノ一定ノ奢移物稅ニ在リテモ亦易キコトア
リ

之ニ反シテ國家ノ間稅ニ在リテハ物品ヲ市町村ノ區域内ニ輸入スル
時ニ徵稅スルノ外ハ附加稅ノ法ヲ用ユルコト甚難シ故ニ國稅ノキト
シテ間稅及普通ノ所得稅ヨリ成ル所ノ國ハ其ノ主トシテ收獲稅ヨリ

成ル所ノ國ニ比スレハ附加稅法ヲ用ユルニ適スルコト遙カニ少ナシトス

而シテ此ニ尙一ツノ注意ヲ要スルモノアリ即其ノ國稅業ニ既ニ重ク又ハ著シク市町村ノ歳入ヲ増加セサルヲ得スレテ其ノ附加稅ヲ加タル所ノ稅額負擔頗ル重キヲ致スニ當タリテハ則其ノ附加稅ノ法ノ以テ足レリトセス尙獨立稅ノ法ヲ兼用シテ之カ補足トナサル、ルノ得サルナリ是ノ故ニ市ノ職分日ヲ追フテ多キヲ加フル所ノ大都府ニ在リテハ獨立稅ノ法ヲ用ユルノ必要アルコト或ハ既ニ久シカラシニ反シテ収獲稅ノ制ヲ行フ所ノ町村ニ在リテハ附加稅法ヲ以テ充分ニ其ノ需用ヲ満足スルヲ得ルナルヘシ

第十三章

市町村ノ歳入ハ何種ノ公法上ノ收入ヨリ成ルヲ以テ正當トナスヤハ

最重要ノ問題ニシテ先ツ此ノ問題ヲ解答スルニアラサレハ則國稅ノ附加稅トナスヲ得ルヤ又ハ獨立稅ヲ優レリトスルヤヲ知ルヘカラサルナリ

手数料ノ制完美ニシテ且前述ノ意義ヲ以テ所謂助成金ヲ徵收スルノ法廣ク行ハレシカ其ノ他ニ土地及家屋ノ稅ヲ課シ以テ報償ノ主義ヲ奉スルヲ得ヘシ而シテ其ノ土地及家屋ノ稅タル町村ニ在リテハ其ノ價大概變動ナキカ故ニ國稅ニ附加シテ之ヲ徵スルモ妨ケナシト雖市ニ在リテハ其ノ價ノ變動頻繁ナルヲ以テ特ニ稅額ヲ評定スルコトヲ勸奨ス何トナレハ則其ノ價ノ變動ハ市町村事務ノ消長ニ密接ノ關係ヲ有スレハナリ又此ノ關係アルノ故ヲ以テ不動産移轉稅ノ幾分ヲ市町村殊ニ市ニ與フルハ至當ノ事ト爲スヘキナリ

一定ノ直接奢侈物稅例ヘハ犬及馬車等ノ稅ハ市町村ニ於テ之ヲ徵收

スルニ最適當ナルモノナリ
 右ノ諸税ヲ以テ既ニ報價主義ヲ行フニ足レリトスルトキハ則其ノ他
 ノ税ハ専ラ從資主義ニ基クテ可トス第一ノ主義ニ據リ租税ノ義務ノ
 舉ケテ比例的ニ少數ナル者ニ負擔セシムルハ實ニ法外ニ其ノ負擔ノ
 重クスルノミナラス復應ニ市町村ハ各階級ノ人民ヲ悉ク包含シ其ノ
 利益ヲ計ルノ事實ニ背馳スヘシ是ヲ以テ市町村ハ金租稅、營業稅及勞
 働稅若ハ普通ノ所得稅ニ向ヒテ其ノ附加稅ヲ課セサルヲ得ス但附加
 稅ノ爲稅額非常ニ増加スルコトナク且其ノ評定稍完全ニシテ附加稅
 ヲ課スルモ妨ケナキ時ニ限ル若其ノ法既ニ陳腐ニ屬シ且租漏ノ廉ア
 ルトキハ市町村稅ノ爲特ニ其ノ評定ヲナスニアラサレハ永久ニ之ヲ
 施スヘカラサルヘシ
 此ノ附加稅ノ幾分ニ代ルニ借家稅即住宅稅ヲ以テシ又ハ之レヲ以テ

其ノ幾分ヲ補足スルヲ得ヘシ勿論此ノ税ハ可及的納稅力ニ應セシム
 ル爲程度ノ累進比例ヲ以テ評定シ借家料ノ價格一定ノ分度ニ違ハサ
 ル住宅即届出價格ニ據リテ課稅ヲ評定スルトキハ則其ノ一定ノ價額
 以下ニ屬スルモノハ全ク之ヲ免稅シ或ハ之ヲ課スルモ最輕キヲ自シ
 トス蓋小家屋ハ比例的ニ其ノ借料不廉ニシテ細民ハ借家料ノ爲ニ比
 例的ニ其ノ所得ノ大部分ヲ費スコト稀ナラス且下等ノ人民ニハ間接
 ノ消費稅ヲ課スルトキハ則其ノ負擔ヲ感セシメスシテ實行シ易キヲ
 以テナリ

第十四章

前條論スル所ノ諸税ノ外飲食物ニ課スル間接ノ消費稅モ亦國家ノ消
 費稅ニ於ケルト同一ナル財政上ノ理由アルヲ以テ之ヲ飲シヘカラサ
 ルナリ而シテ消費稅ヲ課スルハ市町村内ニ於テ實際消費セラル、物

品ニ限ルヘシテ單ニ其ノ土地ヲ經過シ又ハ他ニ輸出スル物品ニ向
ヒテハ之ヲ課スヘカラサルハ固ヨリ言フ俟タス故ニ國家ノ消費稅
附加シテ之ヲ徵收シ得ルハ極テ稀ニシテ僅々其ノ曾テ穀粉稅及屠獸
稅ヲ課シ又今日葡萄酒稅ヲ課スルニ此ノ物品ヲ市町村ノ區域内ニ輸
入スル時ニ於テ之ヲ徵收シ或ハ麥酒ニ於ケルカ如ク生産者ニ就キ之
ヲ徵收スル等ノ場合ニ限レリ而シテ其ノ生産者ニ就キ徵稅スル場合
ニ在リテハ實際其ノ地ニ於テ消費スルモノ、ミニ課稅スヘキコト勿
論ナリ

市町村ニ於テ間接ノ消費稅ヲ徵收スルニハ其ノ區域ノ周圍ナル出入
口ニ於テ嚴重ニ物品ノ輸入ヲ監察スルヲ要ス故ニ之ヲ徵收スルヲ得
ルハ市ニ限リ而シテ其ノ四方開通スル所ノ村落ニ於テハ之ヲ徵收ス
ヘカラス

市町村消費稅ヲ非トスルノ論者ハ普通ニ消費稅ヲ非トスル理由、外
尙特ニ左ノ諸點ヲ論據トス

第一 消費稅ヲ徵收スルニハ必ス市町村ノ區域ヲ閉鎖セサルヲ得
ルモノニシテ之カ爲潛密輸入ヲ誘撥シ交通ノ發達ヲ妨害シ且
其ノ監察ノ手數等甚煩ハシキモノナリ

第二 消費稅ハ費用頗ル多キ所ノ監督法ヲ要シ爲ニ其ノ純收入比例
的ニ多カラス

第三 此ノ稅ニ由リテ收入ヲ生セシムルニハ上等ノ人民ヨリモ却リ
テ下等人民ノ負擔ヲ稍重クシ而シテ農產物及國產物ニ課スル
ノ稅ナルヲ以テ其ノ消費ヲ減シ近傍ノ農園夫ノ爲產物ノ賣捌
ヲ支障遊滯セシムルカ如キ不利ヲ蒙ラシム

第四 市町村ノ消費稅ハ國稅ノ如ク各地一樣ナル能ハスシテ其ノ間

往々大差アルカ故ニ國內多クノ地ニ向ヒ最異別ナル競争ノ原
因ヲ生スヘシ

第五 消費税ヲ以テ市外ノ競争ニ對シ市内ノ工業ヲ保護スルヲ得ル
ノ力ヲ濫用シ却リテ其ノ効ナキヲ致スコトアルヘシ

第六 消費税ヲ以テ市町村ノ需用ヲ給足スルハ極メテ容易ナリ此ノ
事ノ容易ト其ノ負擔ヲ感スルノ少ナキトハ即不經濟ノ措置ヲ
ナシ濫費ノ弊ヲ生スルノ原因トナルコトアリ
又其ノ之ヲ駁スル者ノ論点ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 潜密ノ輸入ヲ誘引スルコトナキニアラスト雖税率餘リニ強カ
サルトキハ即其ノ弊格別甚タシカラサルヘシ其ノ消費税ニ於
ケル潜密ノ輸入ハ収獲税及所得税ニ於ケル届出ニ於テ偽稱ア
ルヲ免レサルニ異ナラス又此ノ税ニ依リテ交通ヲ支障スト云

フモ之ヲ課スル物品ノ種類多カラサレハ則其ノ害亦恐ル、ニ
足ラス但此ノ税ヲ課シ得ヘキ物品ハ大概國家ノ法ヲ以テ僅々
二三種ニ限リアリ

第二 収入ノ大部分ヲ徴収費ニ失フトハ蔽フヘカラサル事實ナリト
雖他ノ一方ヨリ之ヲ見レハ其ノ純収額ハ他ノ諸税ノ収額ヲ超
過スルコト著シ

第三 此ノ税ハ上等人民ヨリモ却リテ下等人民ノ負擔ヲ重クスルコ
トアリト雖課税品ノ選定其ノ宜キヲ得殊ニ葡萄酒及肉類、如
キモノニ在リテ其ノ品位ノ如何ニ基キ税率ヲ異ニシ且直税ヲ
以テ其ノ權衡ヲ取ルコトニ注意セハ則大ヒニ其ノ害ヲ減シ或
ハ全ク之ヲ洗除スルヲ得ヘシ

第四 各市消費税ノ輕重ヲ異ニスルカ爲成ハ競争ノ原因ヲ異ニスル

コトアリト雖稅率高カラサレハ是亦其ノ實アルコト少ナシ且夫大都ニ在リテハ其ノ物價ニ影響スル他ノ經濟上ノ事實ニ比シテ其ノ害些少ナリトス

第五 保護力ノ濫用ハ市町村ノ上ニ立チテ監督權ヲ有スル政府アリ以テ之ヲ豫防スヘシ

第六 消費稅ヲ徵收スルカ爲ニ財政ヲ輕忽ニスルコトアルハ其ノ之ヲ徵收セサル時ニ比スレハ稍其ノ恐レ多シト雖斯ノ如キハ市町村財政ノ局ニ當ル者其ノ任ニ堪ユヘキ知識ヲ具ヘス且國家カ其ノ監督權ヲ使用セサルニ當タリテ生スル弊害ノミ良シヤ消費稅ノ補助ヲ以テ二三ノ無用ナル費用ヲ辨スルコトナキニアラスト雖此ノ稅ナキトキハ則一方ニ於テハ緊急必要ノ費用モ之ヲ辨スヘカラサルコトアルヲ思ハサルヘカラス

五 國家ノ財原讓與及補助金 第十五章

凡國家ト市町村若クハ尙高等ナル自治體ノ間ニ於ケル親密ナル關係ハ國家カ其ノ富裕ニシテ全國ノ納稅力ニ根底スル資力ヲ以テ市町村ヲ補助スルニアリ其ノ之ヲ補助スルノ道二様アリ各市町村ノ爲不平等ニ一定ノ財源ヲ讓ルヲ以テ一法トシ國家ノ歲入ヲ以テ特ニ貧窮ニシテ充分ノ資力ヲ具ヘサル各個ノ市町村若クハ一定ノ目的ヲ達スル爲各市町村ヲ補助スルヲ以テ一法トス而シテ其ノ第一法ヲ財源ノ讓與ト謂ヒ第二法ヲ補助金ノ下渡シト謂フナリ

例ヘハ某稅ノ幾步ヲ市町村ニ與ヘ又ハ市町村ニ於テ國稅ヲ徵收スルノ報酬トシテ某設備ノ收入ノ一部分又ハ某稅ノ一部分ヲ市町村ニ讓リ以テ永久其ノ財源トナサシムルトキハ即チ國家ハ財源ヲ市町村ニ

讓與スルモノニシテ元來獨立ナル市町村税又ハ附加税ニ加フヘキモノナリ而シテ之ニ加フヘシトナスノ主因ハ各市町村ニ向ヒ平等ニ之ヲ分配スルノ標準ヲ見出スヘカラサルニ在ルモノトス
又其ノ補助金ヲ交付スルハ稍其ノ理アルモノト云フヘシ而シテ其ノ一定ノ目的ヲ達スル爲一般ニ之ヲ下付スルト補助ヲ要スル市町村ノ財政上ノ景況ヲ調査シタル後個々ニ之ヲ下付スルノ別ヲ問ハス就中救貧教育及道路ノ事業ノ爲ニ下付スル所ノ補助金ノ効力ハ頗ル著大ナリ其ノ市町村ノ歳入ニシテ日々追フテ増加スル所ノ需用ヲ給スルニ足ラサルニ於テ殊ニ以テ然リトス

六 市町村債

第十六章

市町村モ亦臨時緊急若ハ其ノ有益ナルコト争フヘカラサル巨多ノ費

用ヲ要スルモ他ニ之ヲ辨スルノ収入ヲ得ルニ策ナキトキハ則負債ヲナシ以テ其ノ資金ヲ求ムルヲ得ヘシ

市町村ハ負債ヲナスニ當タリ國家(即上司ノ行政廳)ノ干涉及豫防的ノ監督ヲ受クルコト則之ヲ別言スレハ其ノ負債ヲナスニ就キ制限ヲ蒙ルハ其ノ國家ニ對スル位地ノ自然ニ出ツルモノニシテ而シテ國家ノ豫防的ノ監督及干渉(第一)其ノ認許(第二)資金ノ調達及(第三)負債ノ種類ニ於テ顯ハル、モノナリ

(一)市町村ニ於テ負債ヲ興サントスルトキハ則短縮ナル期限内ニ還償スル些少ノ負債ヲ除クノ外ハ必ス豫メ國家ノ認許ヲ受ケサルヲ付ス國家ニ於テハ眞ニ臨時ノ支出ニ充ツルモノニシテ其ノ必要若ハ有益ナルコト毫モ疑フヘカラサルトキニアラサレハ之カ認許ヲナスコトナシ

(二)負債ヲ興サントスルモ小町村ニ在リテハ其ノ資金ヲ得ルコト住ル極メテ困難ナルモノニシテ國家ハ其ノ調金ニモ亦干渉スルヲ得ヘシ國家ハ就中國家全體ノ爲ニ緊要ナル支出ヲ辨スル時ニ於ケルカ如ク自ラ必要ノ債ヲ興フルコトアリ或ハ公共ノ金融會社ヲ創置シテ市町村ニ債ヲ與フルノ義務ヲ負ハシメ或ハ與債ノコトヲ私立金融會社ニ勸諭スルコトアリ其ノ稍小額ナルモノハ特ニ所得アル慈善金庫ニ就キ之ヲ借入ル、コト極メテ多シトス

(三)市町村債ハ其ノ種類上ヨリ之ヲ論スルニ國債ニ反對シテ僅々數年又ハ數十年ヲ期限トシ其ノ償還期日ヲ定ムルモノ多シ蓋市町村亦一ツノ公共團體ニシテ國家ニ等シク永存ノ性質アリトスヘキモノナレトモ其ノ人民ノ多寡及ヒ富貧ノ分度變動常ナキコト之ヲ國家ニ比シテ稍大ナルカ故ニ其ノ永久利子ヲ仕拂フヘキ能力アル

保全スルノ機能アルコト隨ヒテ稀少ナリ且夫市町村ハ概テ其ノ債權ヲ生産的ノ事業ニ用ユルモノニシテ他日其ノ収獲ヲ以テ負債ノ元利ニ充ツルヲ得ルカ故ニ敢テ納稅者ノ負擔ヲ重クスルニアラス而シテ其ノ規則正シク利子ヲ仕拂ヒ資本ヲ償還スルコトヲ保全スルノ力ニ富ムコトハ國家ヨリモ却リテ大ヒナリトス

財政原論大尾

明治二十四年十月廿八日印刷
明治二十四年十月廿九日出版

正價金壹圓

櫻井

譯述者 寺田 勇吉

東京市小石川區豊川町
二十八番地

譯述者 平塚 定二郎

東京市麴町區三番町十番地

印刷者兼 八尾 新助

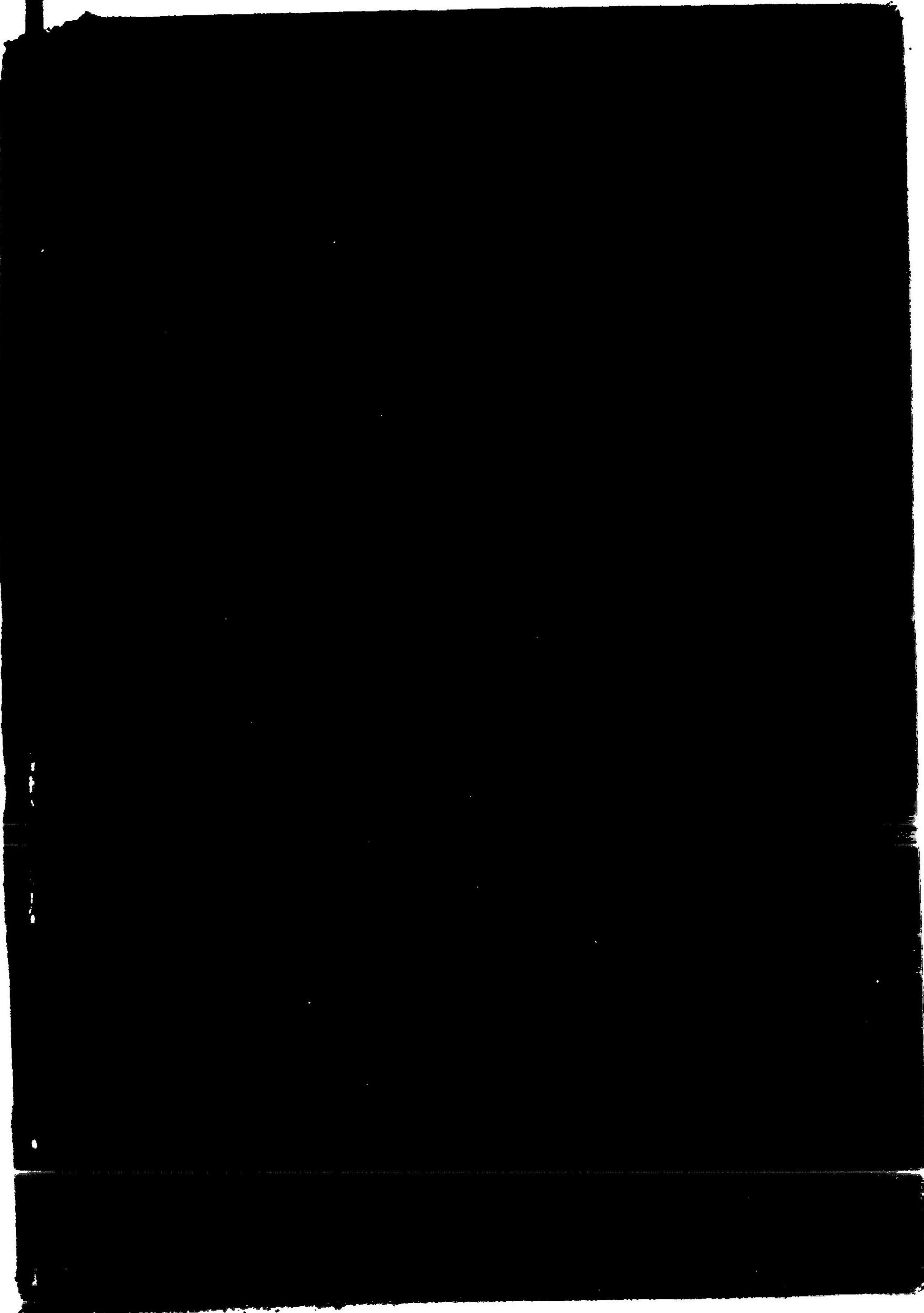
東京市神田區錦町
三丁目八番地

發賣元 八尾 書店

東京市神田區表神保町
一丁目



38
217



38

217

040610-000-8

38-217

財政原論

エーヘルヒ/著

M24.10

BDE-0244



